

# 学校改善支援プラン

—新学習指導要領の全面実施を見据えて—

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査  
調査結果分析を踏まえた7つの提言

令和元年10月  
京都府教育委員会

# 目 次

I	京都府における調査結果の概要	1
II	京都府における国語の状況と改善のポイント	
1	小学校国語の概要	4
2	中学校国語の概要	4
3	小学校国語の設問別調査結果	5
4	中学校国語の設問別調査結果	6
5	小学校国語科の授業改善のポイント	7
6	中学校国語科の授業改善のポイント	11
III	京都府における算数・数学の状況と改善のポイント	
1	小学校算数の概要	16
2	中学校数学の概要	16
3	小学校算数の設問別調査結果	17
4	中学校数学の設問別調査結果	18
5	小学校算数科の授業改善のポイント	19
6	中学校数学科の授業改善のポイント	23
IV	京都府における英語の状況と改善のポイント	
1	中学校英語の概要	28
2	中学校英語の設問別調査結果	29
3	中学校英語の授業改善のポイント	30
V	児童生徒質問紙調査結果から見える成果と課題	
1	児童生徒質問紙調査について	36
2	児童生徒質問紙の調査結果について	37
(1)	国語への関心等	37
(2)	算数(数学)への関心等	38
(3)	英語への関心等	39
(4)	自己有用感・(5)規範意識	40
(6)	生活習慣・(7)学習習慣	41
(8)	その他の項目	42
3	府学力診断テストと合わせた経年変化	43
VI	学校質問紙調査結果から見える成果と課題	
1	学校質問紙調査について	48
2	学校質問紙の調査結果について	
(1)	国語科の指導・(2)算数(数学)科の指導法	49
(3)	英語の指導法	50
(4)	授業改善・(5)生徒指導	51
(6)	学校運営・(7)家庭や地域との連携	52
(8)	教職員の資質能力の向上	53
(9)	その他の項目	54
VII	提言	
1	質問紙調査の分析から	56
2	平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査 調査結果 を踏まえた学力向上対策	62

# I 京都府における調査結果の概要

# I 京都府における調査結果の概要

## 1 実施概要

- (1) 実施日 平成31年4月18日（金）
- (2) 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年
- (3) 実施教科等
  - ア 教科に関する調査
    - ・国語、算数・数学
    - ・英語(中学校のみ)
  - イ 質問紙調査
    - ・児童生徒に対する調査
    - ・学校に対する調査
- (4) 実施学校・参加児童生徒数〔公立学校（京都市を除く）〕

	区 分	実施学校数	児童生徒数
小学校	全 国	19,263校	1,028,203人
	京都府	206校	10,022人
中学校	全 国	9,511校	938,888人
	京都府	98校	9,198人

※平成31年4月18日（木）に調査を実施した学校・児童生徒数

## 2 教科に関する調査の実施結果（京都市を除く）

### (1) 平均正答率の状況

教科等	国語		算数・数学		英語	
	京都府	全 国	京都府	全 国	京都府	全 国
小学校	65.0	63.8	67.7	66.6		
中学校	73.2	72.8	60.8	59.8	56.1	56.0

### (2) 概況

今回の調査で測定できる学力は、特定の一部ではあるが、結果を平均正答率や正答数分布などで見ると、京都府内の児童生徒の学力は、調査を実施した教科とその領域等で概ね全国平均を上回っている。

## 3 その他

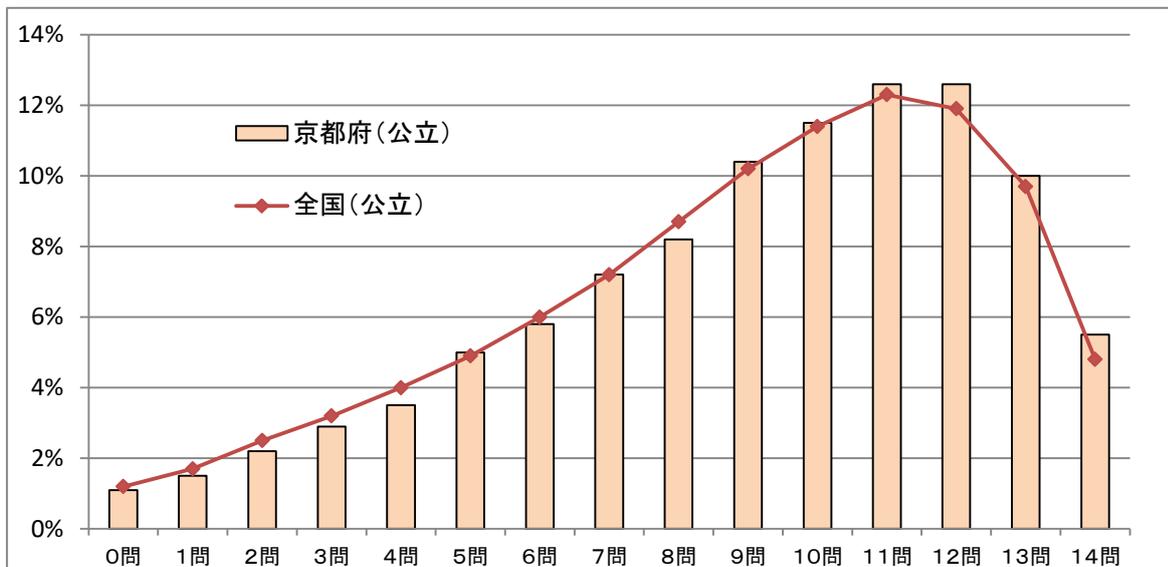
本資料に掲載したデータは、調査実施日当日に受検した京都府（京都市を除く）の児童生徒の結果であり、分析もこのデータを基に行っている。なお、後日受検した児童生徒はこのデータには算入されていない。

## Ⅱ 京都府における国語の状況 と改善のポイント

\*すべて京都市を除く京都府のデータです

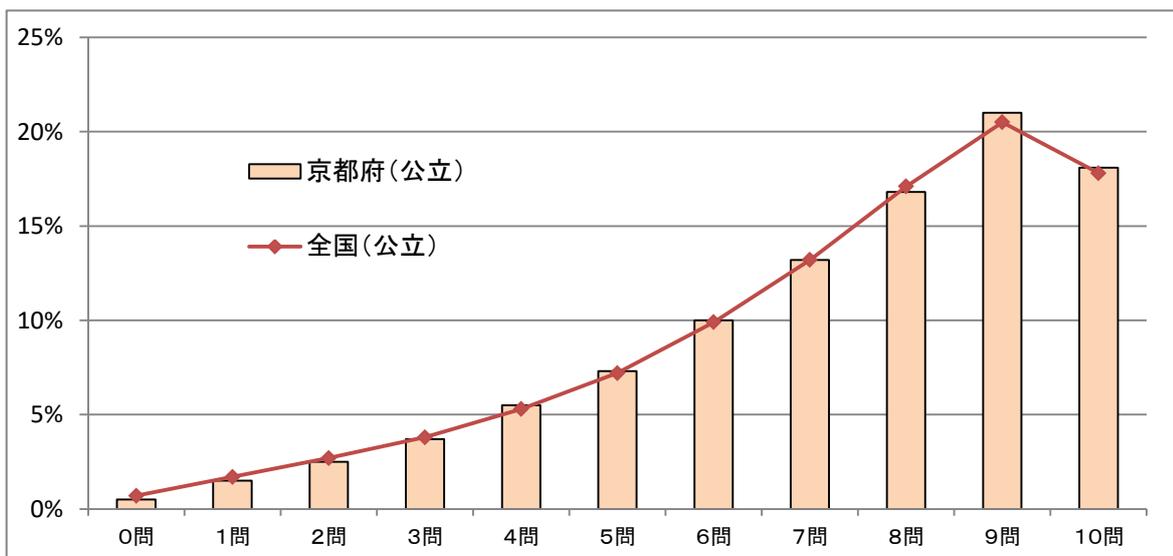
## 1 小学校国語の概要

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	10,021	9.1/14	65.0	10.0	3.3
全国	1,028,203	8.9/14	63.8	10.0	3.4



## 2 中学校国語の概要

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	9,197	7.3/10	73.2	8.0	2.3
全国	938,797	7.3/10	72.8	8.0	2.4



### 3 設問別調査結果 [国語]

### 小学校 [国語]

京都市を除く京都府一生徒（公立）

#### 集計結果

	児童数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	10,021	206	65.0
全国（公立）	1,028,203	19,263	63.8

#### 分類・区別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)	
		京都府	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	74.2	72.3
	書くこと	55.0	54.5
	読むこと	81.9	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	55.4	53.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	59.5	57.6
	話す・聞く能力	74.2	72.3
	書く能力	55.0	54.5
	読む能力	81.9	81.7
	言語についての知識・理解・技能	55.4	53.5
問題形式	選択式	75.6	75.1
	短答式	50.7	48.7
	記述式	59.5	57.6

◇ 全ての領域で全国平均を上回っている。無解答率も、全ての問題において全国平均を下回っている。

◆ 全国平均を下回った問題は2問である。これまでのAB問題が一体化され、【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】の設問は激減したが、全国平均を下回った問題の1つが1四(1)アであり、同音異義語など伝国の内容についても実生活で使うことを意識して指導することが必要である。



#### 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府	全国	府(※)	全国
1一	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で〈資料2〉と〈資料3〉をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する	書くこと	71.5	71.2	0.4	0.5
1二	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2)公衆電話にはどのような使い方や持ちようがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する	書くこと	62.7	63.4	5.7	5.9
1三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□□に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	書くこと	30.9	28.8	3.1	3.8
1四(1)ア	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の―部アを、漢字を使って書き直す(調査のたいしょう)	伝国	41.0	41.9	6.2	8.2
1四(1)イ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の―部イを、漢字を使って書き直す(友達にかぎらず)	伝国	72.4	69.4	9.4	12.1
1四(1)ウ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の―部ウを、漢字を使って書き直す(かんしんをもってもらいたい)	伝国	38.1	35.6	3.3	4.9
1四(2)	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□□□□の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す	伝国	51.2	47.8	8.7	11.3
2一(1)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の□アに入る、疑問に思ったこと①に対する答えとして適切なものを選択する	読むこと	80.7	80.7	1.1	1.4
2一(2)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の□イに、疑問に思ったこと②に対する答えになるように考えて書く	読むこと	76.3	75.9	4.0	5.0
2二	梅干し作りについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選択する	読むこと	88.7	88.5	3.5	4.2
3一	豊職人への【インタビューの様子】の□アに入る、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	82.3	81.3	2.4	3.4
3二	豊職人への【インタビューの様子】の□□□□の場面における、質問の工夫として適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	69.1	67.4	3.2	4.2
3三	【インタビューの様子】の□イに、豊職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	話すこと・聞くこと	71.2	68.2	11.3	14.2
3四	ことわざの使い方の例として、【ノートの一部】の□ウに入る適切なものを選択する(習うより慣れよ)	伝国	74.4	73.0	6.2	7.9

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を■で、表示しています。

## 4 設問別調査結果 [国語]

中学校 [国語]

京都市を除く京都府一生徒（公立）

### 集計結果

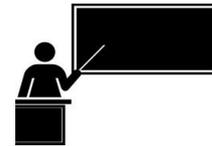
	生徒数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	9,197	98	73.2
全国（公立）	938,797	9,511	72.8

### 分類・区別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)	
		京都府	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	70.5	70.2
	書くこと	83.5	82.6
	読むこと	72.2	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.5	67.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	77.0	76.5
	話す・聞く能力	70.5	70.2
	書く能力	83.5	82.6
	読む能力	72.2	72.2
	言語についての知識・理解・技能	68.5	67.7
問題形式	選択式	74.0	73.6
	短答式	57.0	56.8
	記述式	77.0	76.5

◇ 「読むこと」以外の領域で全国平均を上回っている。無解答率も、全国平均を上回っているのは1問だけである。

◆ 正答率が全国平均を下回った設問は3問あり、そのうち2問が「読むこと」である。様々な言語活動を効果的に位置付けながら「考えの形成」を意識して指導する必要がある。



### 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※1)	全国	府(※2)	全国
1一	「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」について説明したものと適切なものを選択する	読むこと	64.4	63.9	0.1	0.1
1二	「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する	読むこと	61.4	61.5	0.1	0.1
1三	「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く	読むこと	90.9	91.2	1.6	1.7
1四	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く	伝国	57.0	56.8	6.0	5.6
2一	話し合いでの発言の役割について説明したものと適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	80.7	80.4	0.1	0.2
2二	話し合いでの発言について説明したものと適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	69.6	69.7	0.2	0.3
2三	話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く	話すこと・聞くこと	61.0	60.4	7.8	8.9
3一	意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する	書くこと	88.0	87.4	0.3	0.4
3二	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える	書くこと	79.1	77.8	6.1	7.9
4	語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する	伝国	80.0	78.7	1.1	1.2

※1 府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を   で、表示しています。

※2 府(京都市を除く)の無解答率が全国の無解答率より高い問題についてはセルの色を   で、表示しています。

## 5 小学校国語科の授業改善のポイント

### 小学校 話すこと・聞くこと

問題〔3一〕〔3二〕〔3三〕  
(豊職人へのインタビュー)

#### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすること

〔3一〕(府の正答率82.3%、全国の正答率81.3%)

○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめること

〔3三〕(府の正答率71.2%、全国の正答率68.2%)

▲目的に応じて、質問を工夫すること

〔3二〕(府の正答率69.1%、全国の正答率67.4%)



**解説** 「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率は全国平均を上回っています。指導に当たっては、設問が求める内容を、実際の指導の場面で生徒が注意できているかを見る必要があります。

**授業改善のポイント** 実際の指導の中で、以下の点を確認する。

◎目的を明確にしてインタビューに臨む

聞いた内容をどのように活用するのか、自分が必要な情報は何か、誰にどのようなことを聞くのかを明確にしてから、インタビューに臨むようにする。

◎話の展開に沿って、話の内容を十分聞き取ることができるようにする

インタビュー前に、自分の考えをもったり、自分のもっている情報と知りたい情報とを整理したりしておくようにする。自分のもっている情報と関連付けながら聞くようにし、分からないことは問い返したり、相手の話につなげてさらに詳しく聞いたりする。インタビューの中で自分の考えがどう変わったかという「考えの形成」を意識させる。

〈話の展開に沿った質問の例〉

	質問の意図	質問の仕方
話の内容を確認する	分からない言葉の意味を確認する (設問二の選択肢4)	・自分が分からなかった言葉を具体的に挙げて質問をする。 「○○とは、どういうことですか。」
	自分の理解が正しいかどうかを確認する	・自分の理解したことを伝え、正しいかどうかを質問をする。 「それは○○ということでしょうか。」
相手から考えを引き出す	相手の思いをさらに引き出す (設問二の選択肢1)	・相手が繰り返した言葉を用いて質問をする。 「○○について、他にはどのようなことがありますか。」 「他にも○○なことはありますか。」
	相手に質問をする理由を理解してもらう (設問二の選択肢2)	・インタビューの目的を伝えてから質問をする。 「○○について知りたいのですが、～ですか。」 「○○の大切さを全校に広めたいのですが、～ですか。」
	相手が答えやすいようにする (設問二の選択肢3)	・別の言葉に言い換えて質問をし直す。 「では、○○(言い換えた言葉)については、いかがですか。」 ・具体例を挙げながら質問をし直す。 「例えば、○○(具体例)のようなことはありますか。」

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査 報告書 小学校国語 より

## 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

- 図表やグラフなどを用いた目的を捉えること  
 〔1一〕(府の正答率71.5%、全国の正答率71.2%)
- 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと  
 〔1三〕(府の正答率30.9%、全国の正答率28.8%)
- ▲情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えること  
 〔1二〕(府の正答率62.7%、全国の正答率63.4%)

### 解説

- ・課題点は、情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えること。
- ・〔1三〕は、理由や根拠を明確にして書くことについて、必要な情報を複数取り出して書くことも試されています。
- ・2つの必要な情報のうち、1つの情報しか取り出せていないということが昨年度の課題でした。全国平均を上回っていますが、正答率が30%台なので、引き続き課題意識が必要です。

## 授業改善のポイント (調べたことを報告する文章を書く課題)

- ◎図表やグラフを用いる際に、それぞれの資料を用いる効果について気付かせ、実際にそれらを用いた際に効果があるかどうかまで考えさせるようにする。  
 (「話すこと」において、資料を用いてスピーチをする際にも、「言いたいことを相手に伝えるにはどのような資料を提示すると良いか」を考えさせることが重要)
- ◎相手や目的に応じて、適切な記述の仕方を考えることができるようにする。  
 教材文等を利用して記述の仕方の工夫を捉え、その目的や効果などを考える学習を取り入れるようにする。相手や目的を明確にし、どのように書くと分かりやすいかを考えて書くことを習慣付ける。
- ◎事実と感想、意見などを区別して書くことができるようにする。  
 事実を客観的に書く、文末表現に注意して書くなど、事実と考えとを区別して書くようにする。この説問の文章の「2 調査の内容と結果」の(1)~(3)はすべて、①「調査の方法」②結果(分かったこと)という形式で統一された構成である。文章の構成を意識させることは、他の種類の文章を書く際の参考となる。
- ◎自分の考えを支える理由や事例を明確にする。  
 調べてわかった事実から、自分の考えを支えるものとしてふさわしいものを取り上げ、自分の考えとの関係を十分に捉えて書くようにする。  
 調べた目的と、調べた結果に基づく自分の考えとがずれることのないよう、自分の考えを確かめながら書くようにする。

## 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと  
 〔2-1〕(府の正答率80.7%、全国の正答率80.7%)  
 〔2-2〕(府の正答率76.3%、全国の正答率75.9%)
- 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むこと  
 〔2二〕(府の正答率88.7%、全国の正答率88.5%)

### 解説

- ・課題点は、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。
- ・〔2-1〕の正答率は全国平均と同じですが、資料の内容を的確に押さえることは、文章を正しく読解する基本的な指導事項ですので、十分な定着が望まれます。

### 授業改善のポイント (調べ学習で資料を読む課題)

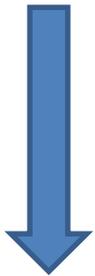
- ◎目的を明確にして資料から必要な情報を的確に押さえる。  
 目的に応じて、何のために、何を知りたいのか、どのような情報が必要なのかを明確にして(主体的に)読むことができるような課題設定が重要である。目的に照らして、自分の考えと関係付けて読むことができるようにする。
- ◎自分の知識や経験、考えなどと関係付けながら読み、「こうではないか」と予想・推測しながら読むように指導することが重要である。
- ◎その上で、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構築したりして、理解したことをまとめるようにする。情報を整理する際には「思考ツール」を活用するなどして、頭の中にあることを言語化、視覚化させ、思考を深めることが重要である。
- ◎学校図書館を利用することを前提として、図書館での資料の調べ方も事前に確認する。目次や索引の特徴を知り、効果的に活用することも大切である。

「目次や索引を活用して読む」(学習活動の例)

<p>〈目次の活用例〉</p> <p>「納豆の作り方」を調べられそうな本を見つけたけれど、最初から全部読まないといけないのかな。</p>  <p>全部読まなくても、目次で確認するのはどうかな。書かれていそうなページを見付けてから読むといいよ。</p> <p><b>目次の特徴</b>              本の初めにあることが多く、まとまりごとの内容をページの順で端的に示しているため、その本に書かれている内容の大体をつかむことができる。</p> <p><b>目次と索引の指導について</b>              調べる学習などを行う際、児童の状況は様々である。目次や索引の特徴を知り、自分の目的や状況に応じて使い分けていく中で、効果的な活用方法を身に付け、有効性を実感できるようにすることが大切である。</p>	<p>〈索引の活用例〉</p> <p>目次を読んでみたけれど、「納豆菌」という言葉はどこにも使われていないよ。この本には載っていないのかな。</p>  <p>調べたい内容として「納豆菌」という言葉がはっきりとしているなら索引で探してみるといいよ。</p> <p><b>索引の特徴</b>              本の終わりにあることが多く、掲載されている事柄や言葉などが50音順で示されているため、必要な内容を容易に探し出すことができる。</p>
--	---

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)**

- 漢字の書き「限らず」〔1四(1)イ〕（府の正答率72.4%、全国の正答率69.4%）
- 接続語を使った文の書き直し〔1四(2)〕（府の正答率51.2%、全国の正答率47.8%）
- ことわざ「習うより慣れよ」〔3四〕（府の正答率74.4%、全国の正答率73.0%）
- ▲漢字の書き「対象」〔1四(1)ア〕（府の正答率41.0%、全国の正答率41.9%）  
「関心」〔1四(1)ウ〕（府の正答率38.1%、全国の正答率35.6%）



**解説** これまで実施されてきたAB問題が、今年度から一体化されたので、漢字やことわざなど「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の問題は激減しました。同音異義語についての問題の1つ（「対象」）が全国平均を下回っています。引き続き以下のような指導が必要です。

**授業改善のポイント**

- ◎文脈に沿って、正しい漢字を書くことができるようにする。  
新出漢字を繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章を見直す学習などの中で、文脈に沿った正しい使い方を習得するようにする。
- ◎各学年の発達段階に応じた指導を工夫するようにする。  
特に高学年では、熟語などの語句の使用が増加する時期でもあり、漢字の持つ意味を考えながら正しく使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を付けるようにする。
- ◎語彙の量と質を充実させることを視野に入れ、ことわざ等の言葉の意味、使い方についても、授業だけでなく、学級生活の中でも自然に触れるなどして、言語環境を整える。

## 6 中学校国語科の授業改善のポイント

### 中学校 話すこと・聞くこと

問題〔2一〕〔2二〕〔2三〕  
話し合いをする(文化祭)

#### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○話し合いの話題や方向を捉えること

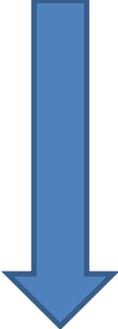
〔2一〕(府の正答率80.7%、全国の正答率80.4%)

▲相手にわかりやすく伝わる表現について理解すること

〔2二〕(府の正答率69.6%、全国の正答率69.7%)

▲話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつこと

〔2三〕(府の正答率61.0%、全国の正答率60.4%)



#### 解説

- ・「話すこと・聞くこと」の領域の正答率は全国平均を上回っていますが、問題が求める内容を、実際の指導の場面で生徒が注意できているかを見る必要があります。
- ・相手にわかりやすく伝わる表現について理解すること〔2二〕は全国平均を下回っています。
- ・また、話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えを持つ〔2三〕は、全国平均を上回っていますが、引き続き指導に留意が必要です。

#### 授業改善のポイント 実際の指導の中で、以下の点を確認する。(話し合うこと)

- ◎誰と何について話し合うのか、何のために話し合うのか、が明確になるような主体的な話し合い活動を行う。
- ◎例えば、小学校での学習を踏まえ、司会の進め方や話し合いの記録の仕方などを確認した上で、実際に記録を取りながら話し合いを行うなどの学習活動が考えられる。
- ◎その際、話し合いの途中で、それぞれの発言の仕方について留意すべき点を確認したり、目指している到達点に向けて取り上げる話題をどのように絞り込めばよいかについて考えたりするなど、話し合いの仕方を見直しながらか進めるように指導することも効果的である。
- ◎話し合いを通じて自分の考えがどう変わったかについて確認させることが大切である。「(考えの形成)」自分の考えをわかりやすく相手に伝えるには、話題に対する自分の立場や考えを明確にするとともにそのような立場や考えであること理由について話すことが大切である。その際、話し合いの参加者の状況を考慮しながら、相手の発言を具体的に言い換えたり、他者同士の発言を結びつけて話したりするように指導する。

## 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討すること  
〔3一〕(府の正答率88.0%、全国の正答率87.4%)

○伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くこと  
〔3二〕(府の正答率79.1%、全国の正答率77.8%)



**解説** 「書くこと」の2つの問題とも全国平均を上回っていますが、〔3二〕の考えの根拠を明確にすることは、「話すこと」にも関わることであり、引き続き留意が必要です。

## 授業改善のポイント (意見文を書く課題)

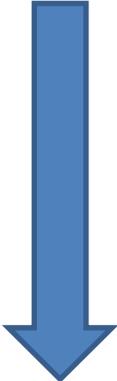
- ◎自分の考えの根拠を明確にするために、複数の事例やデータなどを示し、説得力のある文章にすることを意識させる。
- ◎構成の検討…以下の点に留意する。
  - ・段落と段落との関係を基に論理的な文章の構成になっているかを確認させる。(「小論文グランプリ」の指導としても重要)
  - ・様々な種類の文章を書く際に、文章に応じてどのような構成が必要かについても意識させることが大切。(たとえば問題1の「情報を読む」で、新聞ではどのような構成が工夫されているかなど)
- ◎記述…以下の工夫が必要である。
  - ・接続語の使用や段落構成の工夫(どの部分が根拠であるかが明確になるような表現の工夫)
  - ・表現しようとする内容にふさわしい語句を選んでいるかどうかについて確認させるなど、言葉に着目させること。
- ◎推敲…題材の捉え方や材料の用い方、根拠の明確さ、伝えたいことが伝わる表現になっているかなどを確認させる。(書いた文章を互いに読み合いこれらの点について交流するなどの活動も効果的)
- ◎課題に沿って文章や図表などから必要な情報を根拠として取り上げて、自分の考えを書く活動を設定する。  
その際、取り上げた情報が、自分の伝えたいことの根拠としてふさわしいかどうかを検討し、読み手にわかりやすく伝えるように、必要に応じて取り上げた情報について自分なりの考えを加えるように指導することが大切。

## 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつこと  
〔1一〕(府の正答率64.4%、全国の正答率63.9%)

▲文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えること  
〔1二〕(府の正答率61.4%、全国の正答率61.5%)

▲文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつこと  
〔1三〕(府の正答率90.9%、全国の正答率91.2%)



### 解説

- ・3問のうち、2問が全国平均を下回っています。
- ・課題の1つ目は、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることです〔1二〕。文章全体を俯瞰しながら、必要な情報を選別することについては、今後も引き続き留意が必要です。
- ・2つ目は、文章(文学作品)に表れているものの見方や考え方について自分の考えを持つこと。これは、「話すこと・聞くこと」「書くこと」にも共通する「考えの形成」であり、いずれの場合も、話や文章等から根拠を明確にして表現することが求められます。

### 授業改善のポイント

#### ◎(説明的な文章を読む課題)

- ・文章を正しく読む基本として、主語・目的語・述語等の確認や、指示語と指示する内容との確認など、「これくらいは読めているだろう」と思われるような内容でも、本当に理解できているかを再確認することが重要である。
- ・文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめる際には、自分の考えを支える根拠となる段落や部分などを挙げるように指導する。
- ・その際、文章の構成や展開、表現の仕方について分析するだけでなく、そのような表現をした書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりするように指導する。
- ・生徒自身が目的意識を持って文章を読み、必要な情報を整理することができるように指導を工夫することが重要である。
- ・例えば、目的をもって文章を読み、必要な情報を過不足なく取り出すことができているかということに加え、どのようにすればその情報にたどり着くことができるかについて検討するなどの学習活動が考えられる。

#### ◎(短歌などの文学作品を読む課題)

- ・どの表現に着目しているのかを明確にした上で、以下のことに留意して交流し、各自の考えを広げたり深めたりする指導が効果的である。
  - \* 同じ表現に着目して同じような考えをもっている
  - \* 同じ表現に着目して異なる考えをもっている
  - \* 異なる表現に着目して同じような考えをもっている
  - \* 異なる表現に着目して異なる考えをもっている

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)**

○語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解すること  
〔4〕（府の正答率80.0%、全国の正答率78.7%）

▲封筒の書き方を理解して書くこと  
〔1四〕（府の正答率57.0%、全国の正答率56.8%）

**解説**

- ・今年度AB問題が一体化し、これまで出題されていた漢字の読み書きや慣用句・ことわざ等の問題がなくなりました。
- ・しかし、いわゆる伝国の問題は、毎年府が全国平均を下回る問題の中でかなりのウエートを占めてきたので、日常から定着を図る指導が必要です。
- ・封筒の書き方の問題〔1四〕、語の一部を省いた表現の問題〔4〕ともに全国平均を上回っていますが、特に前者の問題は、封筒に書くという習慣がなくなりつつある現代生活においては、着実に指導していく必要があります(この問題のみ、無解答率が全国平均を上回っています)。総合的な学習に時間でお礼状を書く等の取組とも併せて実施していくことが望まれます。

**授業改善のポイント**

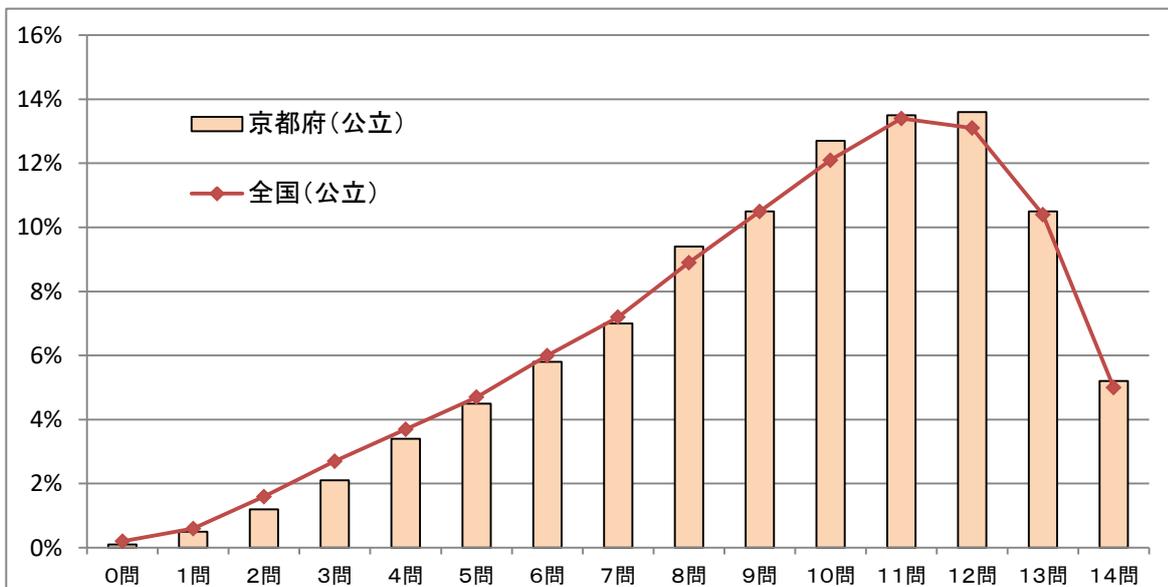
- ◎手紙の基本的な形式に基づき、文字の大きさや配列に注意するなどして丁寧に読みやすく書くように指導することは、社会生活に役立つ書写の能力を育むために重要である。
- ◎その際、相手の名前を他の文字より大きく書くことなど、手紙の形式に込められた相手への敬意について考えさせることが大切である。
- ◎生活体験が乏しくなる風潮の中、これまで知っていて当たり前と思われていた語句を知らないという生徒が増えてくるとされる。それぞれの生徒の語彙の習得状況を把握しながら、理解しているかどうかを丁寧に確認することが必要である。
- ◎語感を磨き語彙を豊かにするには、以下のような学習活動が考えられる。
  - ア 気になった語句をノートに書き留め、その語句を使った短文を作ったり、話や文章の中で使ったりする。
  - イ 文学的な文章の学習で、登場人物の人物像などを四字熟語や慣用句を用いて表す。
- ◎語の一部を省いた表現を始めとする事象や行為などを表す多様な語句について、どのように用いるとよいのかを検討したり、用いる際に必要な配慮があるかを考えたりすることも大切である。

### Ⅲ 京都府における算数・数学 の状況と改善のポイント

\*すべて京都市を除く京都府のデータです

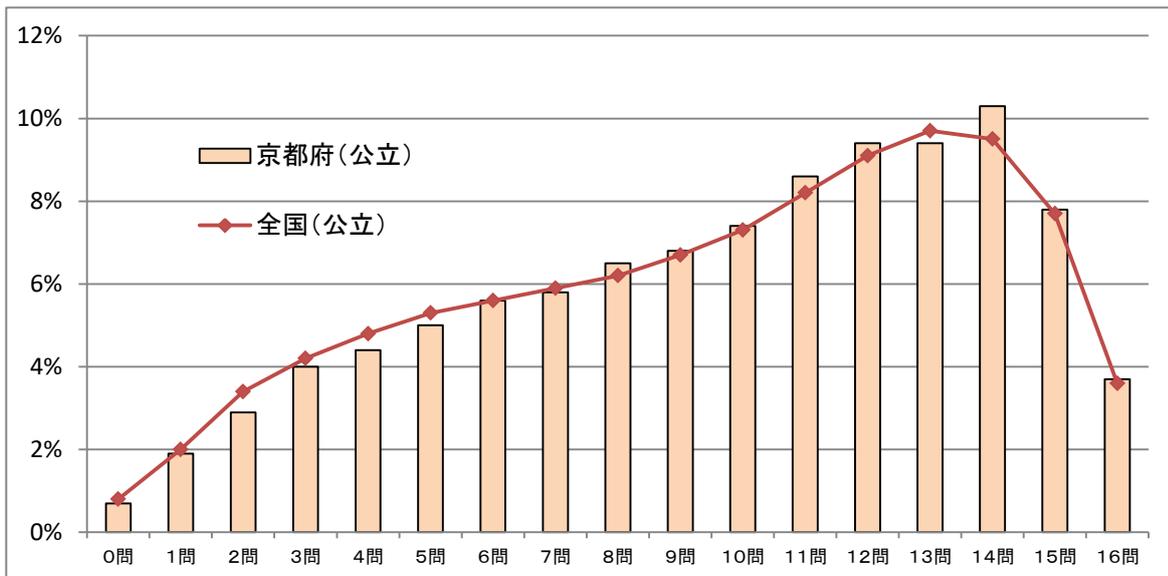
## 1 小学校算数の概要

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	10,022	9.5/14	67.7	10.0	3.0
全国	1,028,177	9.3/14	66.6	10.0	3.1



## 2 中学校数学の概要

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	9,197	9.7/16	60.8	10.0	4.1
全国	938,887	9.6/16	59.8	10.0	4.2



### 3 設問別調査結果 [算数]

### 小学校 [算数]

京都市を除く京都府一生徒（公立）

#### 集計結果

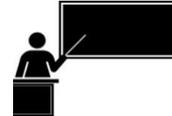
	児童数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	10,022	206	67.7
全国（公立）	1,028,177	19,260	66.6

#### 分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)	
		京都府	全国
学習指導要領の領域	数と計算	64.0	63.2
	量と測定	55.1	52.9
	図形	77.1	76.7
	数量関係	68.8	68.3
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	—	—
	数学的な考え方	63.8	62.2
	数量や図形についての技能	73.1	73.6
	数量や図形についての知識・理解	72.1	70.1
問題形式	選択式	76.7	75.7
	短答式	73.3	72.8
	記述式	49.2	47.4

◇ すべての領域において全国平均を上回っている。無解答率についても、すべての問題で10%より低い。

◆ 式が表すものについての理解や、式が表している数量についての説明に課題がある。立式するだけでなく、式についての理解を深め、式について説明することが望まれる。



#### 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	領域	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府(※2)	全国
1 (1)	長方形を直線で切ってきた図形の中から、台形を選ぶ	図形	94.5	93.1	0.1	0.1
1 (2)	二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできる形を選ぶ	図形	59.7	60.3	0.7	0.6
1 (3)	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く	量と測定	49.9	43.9	4.9	6.7
2 (1)	1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ	数量関係	95.8	95.2	0.2	0.2
2 (2)	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く	数と計算・数量関係	78.6	78.6	0.8	1.0
2 (3)	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く	量と測定・数量関係	52.6	52.1	1.4	2.0
2 (4)	洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する	数と計算・数量関係	58.2	60.1	0.7	1.0
3 (1)	$350 - 97$ について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	数と計算	82.6	81.8	0.7	0.9
3 (2)	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く	数と計算	31.7	31.1	7.9	10.8
3 (3)	被除数と除数にかける数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する	数と計算	77.8	74.9	1.4	2.1
3 (4)	$1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ	数と計算・数量関係	49.6	47.0	1.8	2.2
4 (1)	だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ	数量関係	84.1	82.7	1.2	1.7
4 (2)	何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求める式を書く	数と計算	69.3	68.6	3.2	4.4
4 (3)	残り7ボール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する	量と測定・数量関係	62.7	62.6	2.6	3.5

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を■で、表示しています。

※2 府(京都市を除く)の無解答率が全国の無解答率より高い問題についてはセルの色を■で、表示しています。

# 4 設問別調査結果 [数学]

## 中学校 [数学]

京都市を除く京都府一生徒（公立）

### 集計結果

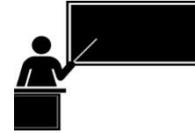
	生徒数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	9,197	98	60.8
全国（公立）	938,887	9,505	59.8

### 分類・区別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)	
		京都府	全国
学習指導要領の領域	数と式	64.8	63.8
	図形	73.2	72.4
	関数	42.4	40.8
	資料の活用	57.1	56.3
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	—	—
	数学的な見方や考え方	51.7	51.0
	数学的な技能	67.9	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	71.1	71.3
問題形式	選択式	60.8	60.3
	短答式	68.2	66.6
	記述式	47.9	47.1

◇ すべての領域において全国平均を上回っている。無解答率についても、すべての問題で全国平均以下である。

◆ 資料の活用領域において、目的に応じて適切に代表値を選択し説明することに課題があり、設問番号8については、小問3つのうち2つの設問で全国平均を下回った。



### 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	領域	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1	a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選び	数と式	61.6	62.2	0.1	0.2
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解く	数と式	72.4	70.1	4.2	5.1
3	△ABCを、矢印の方向に△DEFまで平行移動したとき、移動の距離を求める	図形	83.1	83.6	0.7	0.7
4	反比例の表から式を求める	関数	53.2	48.9	9.5	10.4
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める	資料の活用	78.1	72.8	2.4	3.3
6(1)	冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pのy座標と点Qのy座標の差が表すものを選び	関数	41.0	38.8	0.3	0.3
6(2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	関数	33.1	34.7	11.1	11.6
7(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	図形	76.2	75.8	4.9	5.2
7(2)	ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選び	図形	77.8	77.2	0.3	0.5
7(3)	四角形ABCDがどのような四角形であれば、AF=CEになるかを説明する	図形	56.0	53.3	15.2	17.6
8(1)	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	資料の活用	56.7	57.9	9.7	10.6
8(2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する	資料の活用	41.1	40.8	19.0	21.3
8(3)	図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選び	資料の活用	52.6	53.6	0.9	1.0
9(1)	説明をよみ、 $6n+9$ を $3(2n+3)$ に変形する理由を完成する	数と式	57.6	57.4	8.9	9.5
9(2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	数と式	61.5	59.7	15.5	17.8
9(3)	連続する4つの奇数の和が $4(2n+4)$ で表されたとき、 $2n+4$ はどんな数であるかを選び	数と式	70.9	69.6	1.6	1.9

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を■で、表示しています。

## 5 小学校算数科の授業改善のポイント

### 小学校 数と計算

問題 [2 (2)] [2 (4)] [3 (1)] [3 (2)]  
[3 (3)] [3 (4)] [4 (2)]

#### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

- 示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用すること  
[3 (1)] (府の正答率82.6% 全国の正答率81.8%)
- 示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算すること  
[3 (3)] (府の正答率77.8% 全国の正答率74.9%)
- 示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式すること  
[4 (2)] (府の正答率69.3% 全国の正答率68.6%)
- ▲加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすること  
[2 (4)] (府の正答率58.2% 全国の正答率60.1%)
- ▲示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述すること  
[3 (2)] (府の正答率31.7% 全国の正答率31.1%)

#### 解説

- ・計算に関して成り立つ性質を活用することで、計算を能率的にするための工夫を行うことについて成果が見られますが、計算に関して成り立つ性質について記述する問題では課題が見られます。
- ・加法と乗法の混合した計算の解答類型をみると、加法を先に計算している児童が約30%います。その中には、整数と小数の加法について各位の単位を揃えてたすことができていない児童もいると考えられます。
- ・示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式する問題では、不要な数量を用いて立式した児童が約14%います。(解答類型より)

#### 授業改善のポイント

- ◎計算をする際には、その計算が確実にできるとともに、計算に関して成り立つ性質を活用することで計算が簡単になるなどの数学のよさに気付くことが大切である。数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質を見いだしたり、数や場面を変えても計算に関して成り立つ性質を活用できるかを考察したりする活動を取り入れることが考えられる。
- ◎3(2)で誤答をした児童の70%以上が3(3)で正答している(全国の割合)。計算に関して見いだした性質を、適用する範囲を広げていきながら、表現できるようにさせることが大切である。児童が具体的な数を用いて表現した場合に、どのような数でも当てはまるようにまとめさせるなど、児童が自ら見いだした性質を一般的に表現しようとする態度を育てることが大切である。
- ◎多くの情報から必要な数量を選択する場面では、問題場面の数量を解釈するために、その数量が何を表しているのかを確認し、解決に必要な数量を選択する活動を取り入れることが大切である。また、立てた式の意味について説明する活動を取り入れることも考えられる。
- ◎計算の順序の決まりは、具体的な場面と関連付けながら理解できるように指導することが大切である。式を左から順に計算した場合と、正しく計算した場合とを、具体的な場面と関連付けながら比較する活動を取り入れることが考えられる。また、計算の順序についての決まりを基に、複数の式を一つの式に表す活動も考えられる。

## 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断すること

[4 (3)] (府の正答率62.7% 全国の正答率62.6%)

▲示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述すること

[1 (3)] (府の正答率49.9% 全国の正答率43.9%)

▲資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述すること

[2 (3)] (府の正答率52.6% 全国の正答率52.1%)

### 解説

- 単位量当たりの大きさを求め、その値を用いて問題場面に適した答えを求める問題に成果が見られました。
- 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方を記述する問題では、図形の構成要素についての着目はできているが、構成要素を用いて示された図形の面積を求める結論の記述がない児童が約15%いました。(解答類型より)
- 資料の特徴や傾向を関連付ける問題では、2つの資料を関連付けることができず、1つの資料だけに着目して解答している児童が約20%いると考えられます。(解答類型より)

### 授業改善のポイント

◎日常生活において、場面の状況に応じて物事を判断したり、解決過程や結果を振り返ったりすることは大切である。異種の2つの数量の関係を図などを用いて考察する活動を通して、単位量当たりの大きさを求めればよいといった見通しをもつことができるようにすることも大切である。その上で、状況が変化した場合、状況の変化に伴って変わることや変わらないことを捉え、判断し直す活動を取り入れることが考えられる。

◎図形の面積を、既習の求積公式を活用して求め、その求め方について説明することができるように指導することが大切である。面積の求め方を考察して式で表現し、その面積の求め方について説明する活動を取り入れることが考えられる。その際、数の意味や演算の意味などを図形と関連付けて説明することができるよう問い返し等を行うことが大切である。

◎目的に応じて、複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断することができない事柄について判断することができるように指導することが大切である。身近にある場面を基に2つの資料の関連について考える活動を取り入れることが考えられる。その際、資料を様々な形で提示することで、統合的・発展的に考えることができるように指導することも大切である。

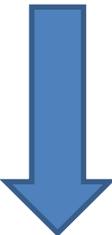
### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○台形について理解すること

[1 (1)] (府の正答率94.5% 全国の正答率93.1%)

▲図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成すること

[1 (2)] (府の正答率59.7% 全国の正答率60.3%)



### 解説

- ・示された図形が台形かどうかを判断することについて成果が見られます。
- ・図形を組み合わせてできる形を選ぶ問題に課題が見られます。問題1(2)では、選択肢1、4に比べて選択肢3を選択できている児童の割合が低くなっています。

### 授業改善のポイント

◎図形の性質や、図形の構成要素である辺や角の大きさなどに着目して図形を捉えたり、合成や分解など図形の構成についての見方を働かせ、複数の図形を組み合わせた図形の面積の求め方を、筋道を立てて考察し表現したりする必要がある。具体物を操作しながら図形を構成、分解したり、作った図形を、図形の性質や構成要素に着目して分類したりする活動が考えられる。

◎図形を分解する活動においては、図形を分けることができる線を見いだすことができるように指導することが大切である。このとき、見いだした線を基に分けることができる理由を、図形の性質や構成要素に着目して説明することができるように指導することが大切である。また、分けることができない図形についても、なぜできないのかを、図形の性質や構成要素に着目して説明することができるように指導することも大切である。

## 全国学力・学習状況調査から見られた成果 (○) と課題 (▲)

○棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取ること

[2 (1)] (府の正答率95.8% 全国の正答率95.2%)

○2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ること

[2 (2)] (府の正答率78.6% 全国の正答率78.6%)

○目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすこと

[4 (1)] (府の正答率84.1% 全国の正答率82.7%)

▲示された除法の式の意味を理解すること

[3 (4)] (府の正答率49.6% 全国の正答率47.0%)

## 解説

- 棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ったり、数量の大きさの関係を読み取ったりすることについて成果が見られます。
- 具体的な場面で、目的に適した伴って変わる2つの数量を見いだすことについて成果が見られます。
- 除法の式の意味の理解に課題が見られます。解答類型をみると、式の除数を、誤って単位量と捉えている児童が約20%いると考えられます。

## 授業改善のポイント

- ◎目的に応じて、必要な資料を収集し、グラフを用いて資料を分かりやすく表すとともに、グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができるように指導することが大切である。問題2(1)で95.8%、2(2)で78.6%あった正答率が、2(3)で52.6%に下がっている。複数のグラフを関連付ける活動を取り入れることが考えられる。
- ◎問題4(1)では84.1%であった正答率が、4(2)では69.3%に下がっている。日常生活の問題解決のために、問題解決には直接必要のない情報を含む多くの情報の中から必要な数量を見だし、立式し、数学的に表現する活動を取り入れることが考えられる。
- ◎計算を能率的に行う工夫をする際に、それぞれの式が何を表しているのかを振り返り、式の意味についての理解を深めることが大切である。その際、それぞれの式が何を求めている式なのかを、具体物や図、数直線などを用いて考察する活動を取り入れることが考えられる。

## 6 中学校数学科の授業改善のポイント

### 中学校 数と式

問題 [1] [2] [9 (1)]  
[9 (2)] [9 (3)]

#### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

- 簡単な連立二元一次方程式を解くこと  
[2] (府の正答率72.4% 全国の正答率70.1%)
- 事柄が成り立つ理由を説明すること  
[9 (2)] (府の正答率61.5% 全国の正答率59.7%)
- 総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈すること  
[9 (3)] (府の正答率70.9% 全国の正答率69.6%)
- ▲数の集合と四則計算の可能性について理解すること  
[1] (府の正答率61.6% 全国の正答率62.2%)
- ▲与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えること  
[9 (1)] (府の正答率57.6% 全国の正答率57.4%)

#### 解説

- ・簡単な連立二元一次方程式を解く問題については、平成26年度と比較すると、府の正答率：66.3%→72.4%、府の無解答率：9.0%→4.2% と成果が見られます。
- ・数の集合について考える問題の解答類型をみると、 $a$ と $b$ が正の整数のとき、 $a$ と $b$ の差だけが正の整数とならない、 $a$ と $b$ の商だけが正の整数とならないと捉えている生徒が約20%いると考えられます。
- ・目的に応じて式を変形させる問題において、変形した後の式がどのような事柄を表しているのかを読み取ることに課題があると考えられます。

#### 授業改善のポイント

- ◎四則計算の可能性について考察する場面において、四則計算の結果がいつでも正の整数(自然数)になるかどうかを考察する活動を取り入れることが考えられる。様々な自然数を代入して四則計算を行い、その結果の特徴を確認する活動を通して、自然数の集合から整数の集合へ、さらには有理数の集合へと数の範囲を拡張し、その拡張した数の集合において、再び四則計算の可能性について考えることで、数の概念の理解を深めていくことが大切である。
- ◎簡単な二元一次方程式を解く場面においては、2種類の文字のうち一方の文字を消去することで一元一次方程式に帰着させて解くことができるという考え方に生徒自らが気付くように工夫し、加減法や代入法の解き方を理解できるように指導することが大切である。また、連立二元一次方程式を解くことによって、様々な問題解決ができるというよさや意義を実感させることも大切である。例えば、一次関数の学習において、2直線の交点の座標は一次関数の式を連立二元一次方程式としたときの解であることを捉え、交点の座標を求めるには連立二元一次方程式を解けばよいことを確認する活動を取り入れることが考えられる。
- ◎文字式を用いた説明を読んだり、根拠を明らかにして説明したりする場面においては、説明すべき事柄に照らし合わせて式変形の目的を捉えることが大切である。例えば、「連続する3つの奇数の和は、中央の奇数の3倍である。」が成り立つことの説明を読む場面では、式変形の目的を説明する活動を取り入れることが考えられる。その際、 $6n+9$ が連続する3つの奇数の和であること、 $3(2n+3)$ が $6n+9$ を変形したものであることに着目し、「なぜ $3 \times \square$ 」の形にするのか」「何の3倍になっているのか」「 $2n+3$ は何を表しているのか」などを確認し、式変形の目的を捉えることができるように指導することが大切である。
- ◎帰納的に考えて予想をたて、式を計算した後予想した形に変形する活動を取り入れることも大切である。

## 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○平行移動の意味を理解すること [3] (府の正答率83.1% 全国の正答率83.6%)

○反例の意味を理解すること [7(2)] (府の正答率77.8% 全国の正答率77.2%)

▲証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解すること  
[7(1)] (府の正答率76.2% 全国の正答率75.8%)

▲結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明すること  
[7(3)] (府の正答率56.0% 全国の正答率53.3%)

### 解説

- 平行移動前と平行移動後の図形を比べる問題では、80%以上の生徒が正解しています。しかし、解答類型をみると、対応する頂点を正しく捉えることができなかった生徒が約10%いると考えられます。
- 反例についての解答類型をみると、命題の仮定も結論もともに満たしていないものを反例と捉えている生徒が約10%いると考えられます。
- 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明する問題では、無解答の割合が15%と高くなっています。

### 授業改善のポイント

◎図形を平行移動する問題では、平成29年度の平行移動した図形をかく問題と比較すると、正答率が低くなっている(平成29年度90.5%→平成31年度83.1%)。平成29年度の問題では、1組の対応する頂点が矢印で結ばれていたが、本年度の問題では対応する点を読み取る必要がある。図形の移動について考察する場面においては、移動前と移動後の図形を比較する機会を設け、対応する頂点や辺の位置関係などを読み取ることができるように指導することが大切である。

◎証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を指摘できるように指導することが大切である。その際、証明を読み、当てはまる三角形の合同条件を確認するとともに、その合同条件を成り立たせる辺や角の関係を図と対応させて捉える活動を取り入れることが考えられる。また、根拠として仮定がどのように用いられているかを確認する場面を設定することも大切である。

◎反例を学習する際には、単に反例を挙げさせるだけでなく、反例とは命題の仮定を満たしているが、結論を満たしていない例であるということや、命題が常に成り立つとは限らないことを示すには反例を1つあげればよいということを生徒が理解できるよう指導することが大切である。証明の指導においては、命題が常に成り立つことを示すばかりではなく、常に成り立つとは限らないことを説明できるように指導することも大切である。

◎与えられた事柄や予想した事柄が成り立つかどうかを、具体例を挙げて調べる活動を通して、結論が成り立つための前提を考え、見いだした事柄を数学的に表現できるように指導することが大切である。また、すでに正しいと示した証明を振り返り、共通する性質等について話し合うことを通して、成り立つことを示すためにどのように考えていけばよいかという方針や構想を立てて考察を進めることも大切である。

## 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

▲反比例の表から、 $x$ と $y$ の関係を式で表すこと

[4] (府の正答率53.2% 全国の正答率48.9%)

▲グラフ上の点Pの $y$ 座標と点Qの $y$ 座標の差を、事象に即して解釈すること

[6(1)] (府の正答率41.0% 全国の正答率38.8%)

▲事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること

[6(2)] (府の正答率33.1% 全国の正答率34.7%)

### 解説

- ・反比例の表から $x$ と $y$ の関係を式で表す問題の解答類型をみると、一次関数の式を解答している生徒が約20%います。反比例の関係が $y = a/x$ の式で表されることを理解していないと考えられます。
- ・ $y$ 座標の差を考える問題についての解答類型をみると、購入して8年間使用するときの総費用と考えている生徒が約40%います。グラフの $y$ 軸が総費用を表しているため、点Pの $y$ 座標と点Qの $y$ 座標の差も、総費用を表していると誤って捉えた生徒がいると考えられます。
- ・問題解決の方法を数学的に説明する問題では、用いる方程式のみの記述、グラフを使うということのみの記述等、見通しをたてる段階で解答を終えている生徒が約10%います。

### 授業改善のポイント

◎比例、反比例の特徴を見だし考察する場面においては、比例、反比例の関係を表、式、グラフを用いて表現することができるように指導することが大切である。その際、表、式、グラフの特徴やよさを理解できるようにする活動を取り入れることが考えられる。

◎問題解決において用いたグラフについて、事象に即して解釈する活動を取り入れることで、グラフを事象に即して解釈できるように指導することが大切である。その際、グラフ上のある点についてどのような事象を表しているのかを読み取ったり、グラフ上の2点の差について、横軸と縦軸がそれぞれ何を表しているのかを確認して事象に即して読み取ったりする活動を取り入れることが考えられる。

◎様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法や手順を説明する場面を設定し、表、式、グラフなどの「用いるもの」と「用い方」の両方について明らかにすることができるように指導することが大切である。また問題解決後は、問題解決の過程を振り返り、立てた方法の見通しと、問題解決に用いた方法について比較・検討し、うまくいったことやうまくいかなかったことを場面と関連付けて整理し、振り返ることが大切である。その際、グラフや式を使って問題解決するためのそれぞれの方法のよさを実感できるようにすることも大切である。

## 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○簡単な場合について、確率を求めること

[5] (府の正答率78.1% 全国の正答率72.8%)

▲資料を整理した表から最頻値を読み取ること

[8(1)] (府の正答率56.7% 全国の正答率57.9%)

▲資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること

[8(2)] (府の正答率41.1% 全国の正答率40.8%)

▲問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断すること

[8(3)] (府の正答率52.6% 全国の正答率53.6%)

## 解説

- ・2枚の硬貨を同時に投げる問題では、解答類型をみると、2枚とも表の出る確率を  $1/3$  と解答した生徒が約8%、 $1/2$  と解答した生徒が約10%います。起こり得る場合の数を正確に数えることができていないと考えられます。
- ・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題では、無解答率が19.0%で、本年度出題された問題の中で無解答率が最も高くなっています。
- ・半数以上が当てはまる根拠を説明する問題では、解答類型をみると、平均値と答えた生徒が約15%、最頻値と答えた生徒が約20%います。具体的な問題解決場面において、目的に応じて適切な代表値を選択することに課題があります。

## 授業改善のポイント

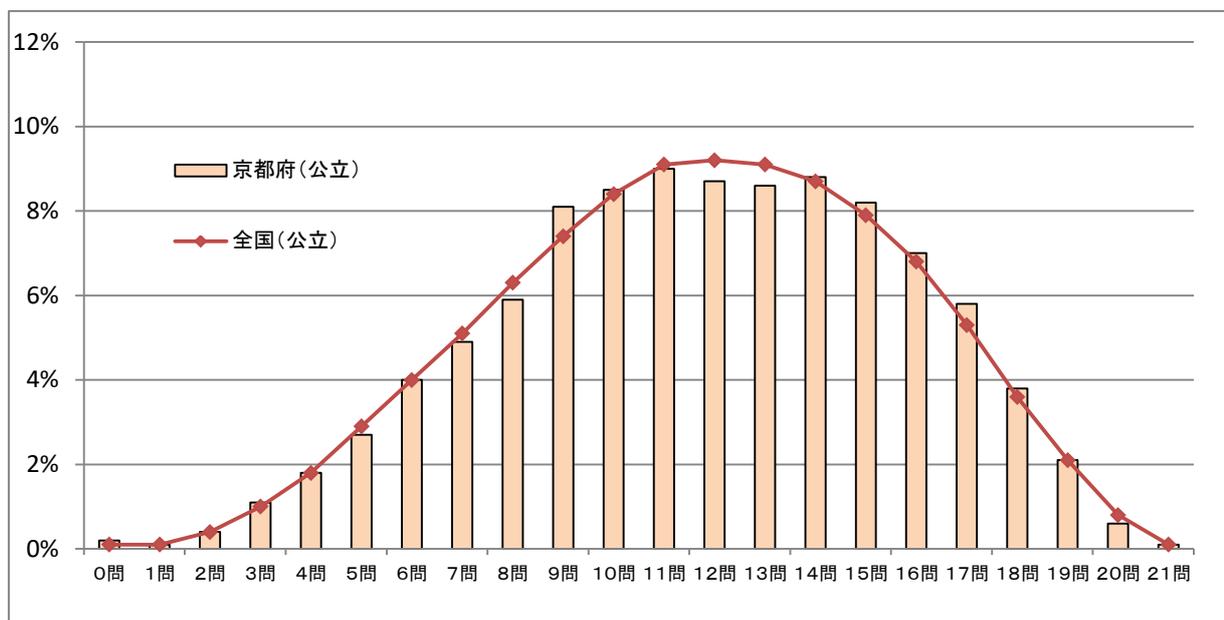
- ◎起こり得る場合の数を基にして確率を求めるには、同様に確からしいと考えられる、起こり得るすべての場合を正しく求めることができるよう指導することが大切である。その際、樹形図や表を用いて、起こり得る場合の数について、算数での学びを振り返り、落ちや重なりがないように数え上げるといった活動を取り入れることが考えられる。また、確率を基にして判断する場面を設定することも大切である。
- ◎データの傾向を読み取り、それを説明する際に、ヒストグラムの形状や複数の階級の度数の大小関係からデータの分布の特徴を捉えて、説明すべき事柄とその根拠を明確にして説明できるようにすることが大切である。その際、データのどのようなところに着目しているかを問い返す等の活動を取り入れることも考えられる。
- ◎目的に応じて収集したデータを度数分布表やヒストグラムに表してデータの分布の様子を捉えた上で、目的に応じてデータの特徴を表す代表値を検討し、どの代表値を用いるべきかを判断できるように指導することが大切である。その際、代表値の意味とその値のみを確認するのではなく、その代表値がデータの傾向やその特徴を伝えるための根拠としてふさわしいことを、事象に即して説明することが大切である。

## IV 京都府における英語 の状況と改善のポイント

\*すべて京都市を除く京都府のデータです

# 1 中学校英語の概要

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
京都府	9,198	11.8/21	56.1	12.0	3.9
全国	938,888	11.8/21	56.0	12.0	3.9



## 2 設問別調査結果 [英語]

## 中学校 [英語]

京都市を除く京都府一生徒（公立）

### 集計結果

	生徒数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	9,198	98	56.1
全国（公立）	938,888	9,500	56.0

### 分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)	
		京都府	全国
学習指導要領の区分等	聞くこと	66.4	67.9
	話すこと（参考値）	—	—
	読むこと	56.0	55.6
	書くこと	47.2	45.8
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	—	—
	外国語表現の能力	1.7	1.8
	外国語理解の能力	44.0	44.7
	言語や文化についての知識・理解	65.2	64.7
問題形式	選択式	70.8	71.4
	短答式	47.7	45.2
	記述式	6.5	6.8

◇ 「読むこと」「書くこと」で全国平均を上回っている。無解答率で全国平均を上回った問題は2問だけである。

◆ 正答率が全国平均を下回った問題は9問あり、そのうち「聞くこと」の問題は6問を占める。まとまりのある内容を聞き、概要を捉えたり、場面や状況、聞き手に応じた反応を理解することに課題がある。



### 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府(※2)	全国
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	聞くこと	91.0	91.1	0.2	0.2
1 (2)	教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する	聞くこと	88.1	88.6	0.2	0.1
1 (3)	外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	聞くこと	71.0	72.3	0.2	0.2
1 (4)	家での会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	聞くこと	58.9	61.8	0.2	0.2
2	イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える	聞くこと	68.6	71.8	0.2	0.2
3	天気予報を聞いて、ピクニックに行くのに最も適する曜日を選択する	聞くこと	81.3	82.0	0.2	0.2
4	来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く	聞くこと	6.2	7.6	42.9	42.3
5 (1)	ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する	読むこと	80.3	79.4	0.2	0.2
5 (2)	ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する	読むこと	74.7	74.4	0.2	0.2
5 (3)	月ごとの平均気温を表したグラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択する	読むこと	73.2	73.1	0.3	0.4
6	発表活動のためにまとめられた100円ショップについての文章を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選択する	読むこと	63.4	62.9	0.4	0.4
7	チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する	読むこと	32.7	32.8	1.0	1.0
8	食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く	読むこと	11.6	10.9	24.8	27.9
9 (1) ①	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	書くこと	80.5	79.9	0.3	0.3
9 (1) ②	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	書くこと	57.2	58.2	0.5	0.5
9 (2) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	書くこと	75.2	73.6	3.9	4.4
9 (2) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	書くこと	31.8	28.9	11.0	12.6
9 (3) ①	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	書くこと	57.1	53.5	5.4	6.4
9 (3) ②	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	書くこと	35.0	32.9	7.7	9.3
9 (3) ③	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	書くこと	39.3	37.4	9.7	10.5
10	学校を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く	書くこと	1.7	1.8	7.0	8.3

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を■で、表示しています。

※2 府(京都市を除く)の無解答率が全国の無解答率より高い問題についてはセルの色を■で、表示しています。

## 5 中学校英語の授業改善のポイント

### 中学校 聞くこと

問題 [1 (1)] [1 (2)] [1 (3)] [1 (4)]  
[2] [3] [4]

#### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ること

[1 (1)] (府の正答率91.0%、全国の正答率91.1%)

▲日常的な話題について、情報を正確に聞き取ること

[1 (3)] (府の正答率71.0%、全国の正答率72.3%)

[1 (4)] (府の正答率58.9%、全国の正答率61.8%)

▲まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解すること

[2] (府の正答率68.6%、全国の正答率71.8%)

▲聞いて把握した内容について、適切に応じること

[4] (府の正答率6.2%、全国の正答率7.6%)

#### 解説

- ・「聞くこと」の領域では、全国平均を全て下回っています。特にまとまりのある文章を聞き取って概要を理解することや情報を正確に聞き取ることにより課題が見られます。
- ・また、[4]のように、把握した内容について適切に応じるような複合問題にも課題があります。無解答率も42.9%（全国の無解答率42.3%）と半数近い生徒が答えられていません。
- ・聞いたことがそのまま答えになるような問題だけでなく、例えば前置詞に着目して聞かせる等、聞き取りのためのポイントを示して概要を聞かせることが重要です。
- ・更に、聞くだけにとどめず、把握した内容について適切に応じる活動を積み重ねていく必要があります。

#### 授業改善のポイント

◎ただ聞いて理解するだけの活動にせず、聞く目的、場面、状況設定を工夫し、更にその場面においてどのような応答がふさわしいのか考えさせ、内容を踏まえて自分の考えや意見を表現させる活動を行う。またそれらの活動を日頃から生徒とのやり取りをする中で、実際に聞いて応じる活動を積み重ね、考える場面を作る。

◎ある程度まとまりのある英語を、年間を通して継続して聞かせる工夫をする。その際、普段の授業を自然な英語の使用場面に近づけていく。その際、教科書本文をどのような形で生徒に出会わせるかを考え、キーワードに着目させたり、5W1Hに着目したりして聞く活動を継続していく。

◎事実や出来事など、必要な情報を正確に聞き取らせる補助として、話の内容を示す絵や写真を順番に並べさせるなど生徒の理解を生徒自身も確かめながら「聞くこと」の指導をする。

◎教師が自然な口調の英語を用いて話すなど、日常的に生徒と英語でのやり取りをしていく。

## 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ること

〔5(1)〕(府の正答率80.3%、全国の正答率79.4%)

○まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解すること

〔6〕(府の正答率63.4%、全国の正答率62.9%)

▲まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解すること

〔7〕(府の正答率32.7%、全国の正答率32.8%)

▲書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえること

〔8〕(府の正答率11.6%、全国の正答率10.9%)

### 解説

- ・成果として、簡単な日常的な話題について、情報やあらすじを読み取ることできています。
- ・しかし、まとまりのある文章を読んで、書き手が最も伝えたいことなど大切な部分や概要を捉えること、読んだ後に自分の考えを示すなど、話の内容や書き手の意見などを主体的に捉えることに課題があります。
- ・特に、読む目的に応じて要点を把握し、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域間の総合的な言語活動を工夫する必要があります。

## 授業改善のポイント

◎読みやすい部分を手掛かりにしながら、読みづらい部分についても推測して読み進めていく力を付ける。文章全体を通して段落相互の関係を読み取り、あらすじや概要を捉える練習をするために、教科書だけでなく他の題材を数多く読ませ、初見の英語に触れさせるようにする。その際、文章全体や段落毎にタイトルをつける活動や話の内容を数文でまとめる活動、文章の順番を並び替える活動を取り入れる。

◎全体のおおまかな内容を捉え、段落毎の最も大切な部分を抜き出し、それについてペアやグループで意見交換する活動を行い、最終的には自分の意見として書いてまとめる活動をさせる。

◎ただ読むだけではなく、複数の情報の中から、書き手が最も伝えたいことは何であるかを考えさせる。

◎主体的に内容を読み取るために、賛否や感想、自分の考えなどを話したり書いたりして表現する活動を用意する。

## 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○▲文の中で適切に接続詞を用いること

〔9（1）①〕（府の正答率80.5%、全国の正答率79.9%）

〔9（1）②〕（府の正答率57.2%、全国の正答率58.2%）

○一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くこと

〔9（2）①〕（府の正答率75.2%、全国の正答率73.6%）

○一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くこと

〔9（2）②〕（府の正答率31.8%、全国の正答率28.9%）

○与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くこと

〔9（3）①〕（府の正答率57.1%、全国の正答率53.5%）

▲与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くこと

〔10〕（府の正答率1.7%、全国の正答率1.8%）

### 解説

- ・全国の正答率と比べると全体的に上回っています。文法事項にも留意して、書くこととする意欲がある傾向が一定見られます。
- ・しかし、正確さに関しては、全国の正答率は上回っているものの〔9（3）①〕のように難易度が上がると正答率が下がります。
- ・また、〔10〕のように、与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりに注意してまとまりのある文章を書くことについては正答率は2%を切っており、日々の授業改善が求められます。

### 授業改善のポイント

- ◎コミュニケーションの目的や場面、状況のある言語活動において、個別の知識を活用させて文を書かせることを授業に位置付ける。また、単に書かせるだけの活動に留まらず、間違いについて生徒自身に考えさせ、正しく文を書くことができるような指導を繰り返し行う。
- ◎ただ書くのではなく、与えられたテーマについて自分の考えを整理し、どのように書けばよりよく読み手に伝わるのかを考えながら書く指導をすることが必要である。また、語や文法事項等を正しく理解して書き表すことができるよう書く練習をする。その際、「自分の主張→主張を支える根拠や具体例」という構成で書くなど文章形式を判断して書く言語活動を行うことも必要である。
- ◎「ペアでやり取りして話したことを書く」「読んだ文章について感想や意見を書く」「聞いたことについて、自分の考えや意見を交えて書く」など、領域を統合した授業を展開する。
- ◎メモを活用しながら、初めは文単位から徐々にまとまりのある文章が書けるように、構成の特徴を意識し、接続詞や副詞などに注目して書くように促す。
- ◎調べたことについて説明や報告をしたり、絵や写真の様子を表現したりする言語活動を通して、3人称を用いて客観的に事実を伝える力を養う。

### 授業改善のポイント

#### 【情報や考えなどを即興で伝え合う指導の充実】

- ◎場面設定を行い、生徒が「話したい、聞きたい」と思うトピックの設定を工夫する。
- ◎準備時間を設けず、即興で伝え合う場面を計画的、意図的に設定する。その際、教師自身がまずは自分自身のことを話し、会話を継続、発展させる方法を駆使し、会話を続けるストラテジーを用いて、生徒にモデルを示す。
- ◎既習の教科書を用いて、本文中の会話の中のストラテジーに気付かせたり、それらを生徒に意識的に使用することができるよう促す。

#### 【生徒が自分の思いや考えを伝え合うやり取りのある授業の実施】

- ◎授業をコミュニケーションの場とし、生徒が自分の思いや考えを伝え合えるような活動を工夫し、教師がそのやり取りのモデルとなるよう率先して英語を使う。
- ◎やり取りの中で見られた発音や表現の誤りについては、その場で確認し、その間違いに気づき、訂正できるようにシェアする。また、既習表現をうまく自分の表現につなげている、コミュニケーションストラテジーを駆使してやり取りを続けている、等の良い例にも目を向け、シェアしていく。
- ◎ある程度まとまりのある英文を話すような課題を意図的に行い、その過程の中で全体の文章構成を考えたり、一度発表した内容を構成面から振り返らせたりする活動も行う。

## V 児童生徒質問紙調査結果 から見えてくる成果と課題

# 1 児童生徒質問紙調査について

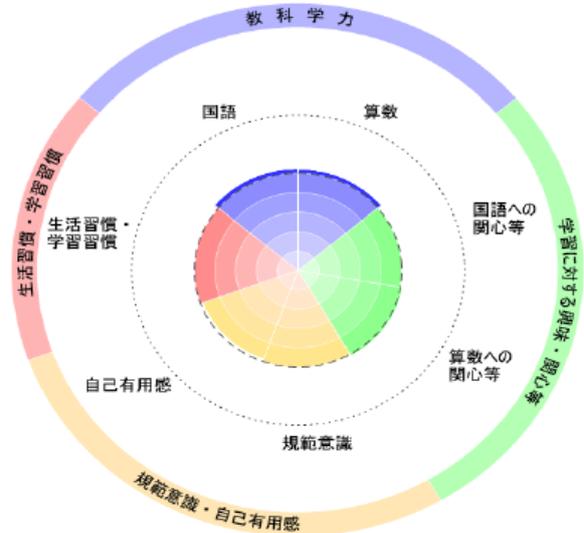
全国学力・学習状況調査では、質問紙調査項目を下記Ⅱ～Ⅳの領域に分けています。また、これらの領域番号ごとに京都府(京都市を除く)の結果チャートを示しています。各学校の結果CDにも学校ごとの結果チャートが掲載されているので、学校の現状がわかります。

## 【小学校】

結果チャート(内側の点線が全国平均)

＜平成31年度調査の領域名と児童質問紙の質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	小学校児童質問紙 対応領域・項目番号
Ⅰ	教科学力	国語
		算数
Ⅱ	学習に対する 興味・関心等	国語への関心等 (37)~(40)
		算数への関心等 (46)~(49)
Ⅲ	規範意識・ 自己有用感	規範意識 (13)(15)(16)
		自己有用感 (5)(6)(8)
Ⅳ	生活習慣・ 学習習慣	生活習慣・学習習慣 (1)~(3)(17)

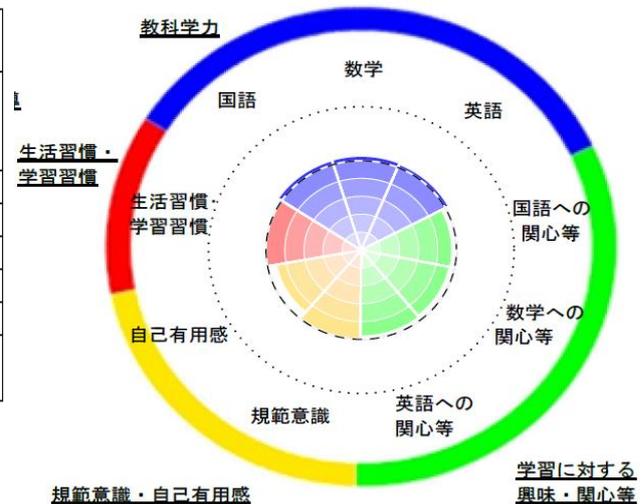


## 【中学校】

結果チャート(内側の点線が全国平均)

＜平成31年度調査の領域名と生徒質問紙の質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	中学校生徒質問紙 対応領域・項目番号
Ⅰ	教科学力	国語
		数学
		英語
Ⅱ	学習に対する 興味・関心等	国語への関心等 (40)~(43)
		数学への関心等 (49)~(52)
		英語への関心等 (54)~(57)
Ⅲ	規範意識・ 自己有用感	規範意識 (13)(15)(16)
		自己有用感 (5)(6)(8)
Ⅳ	生活習慣・ 学習習慣	生活習慣・学習習慣 (1)~(3), (17)



結果チャートに示された京都府(京都市を除く)の傾向を、この領域ごとに次ページから見ていきます。

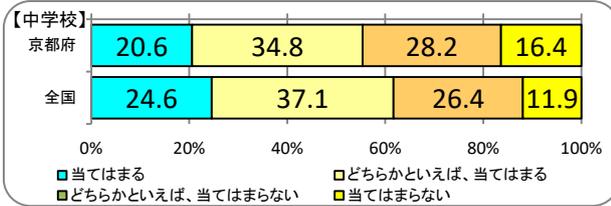
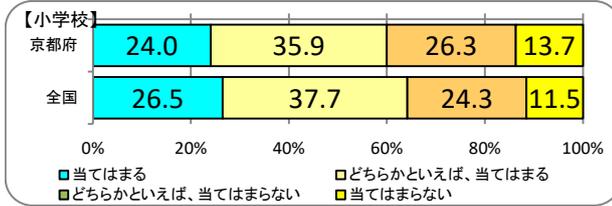
## 2 児童生徒質問紙の調査結果について

### (1) 国語への関心等

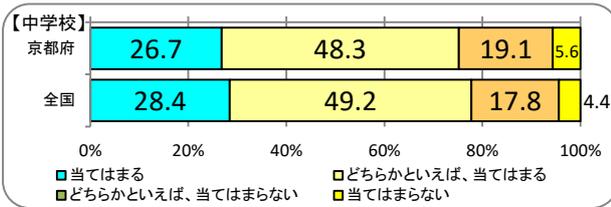
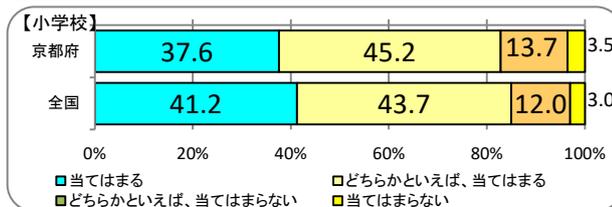
京都府のデータは京都市を除いています

Q1～5は便宜上の番号であり、実際の質問番号はP36参照

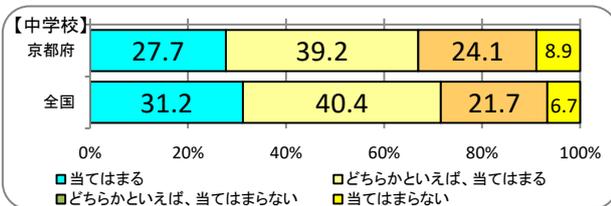
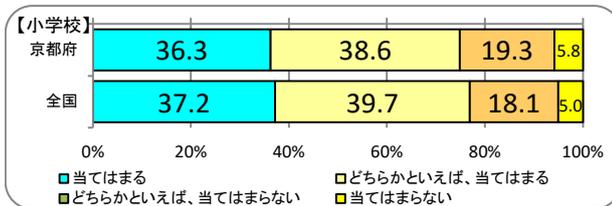
Q1：国語の勉強は好きですか



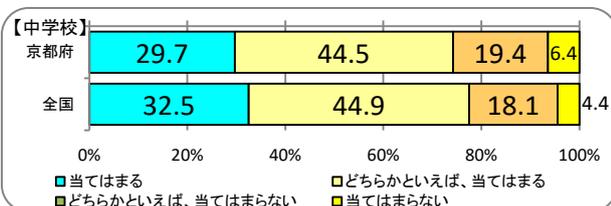
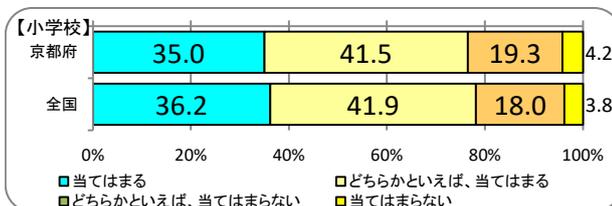
Q2：国語の授業の内容はよく分かりますか。



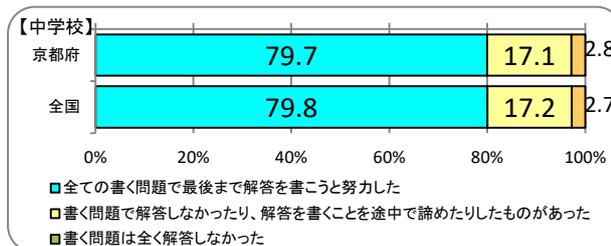
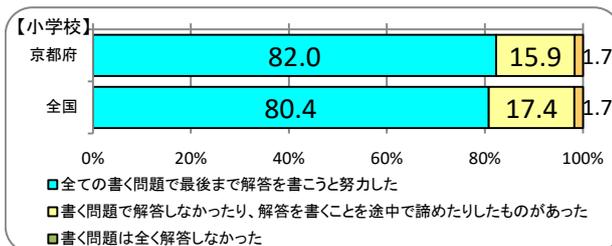
Q3：国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか



Q4：国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか



Q5：今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか

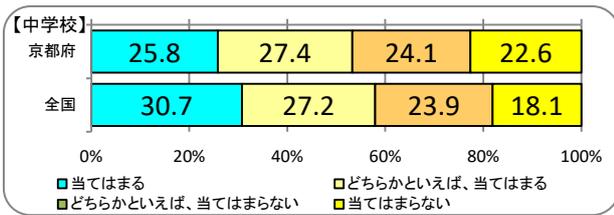
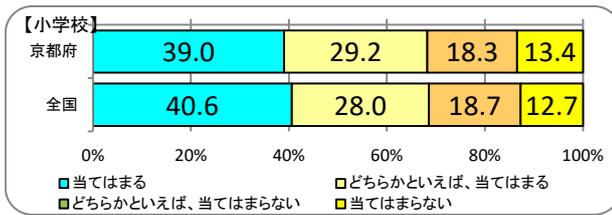


## (2) 算数(数学)への関心等

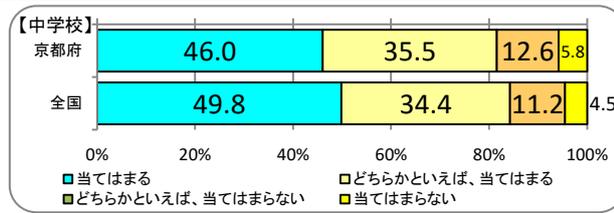
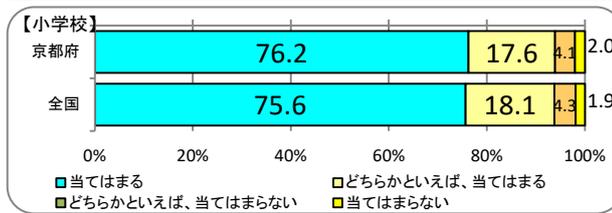
京都府のデータは京都市を除いています

Q1～5は便宜上の番号であり、実際の質問番号はP36参照

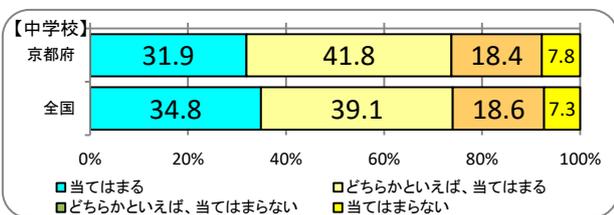
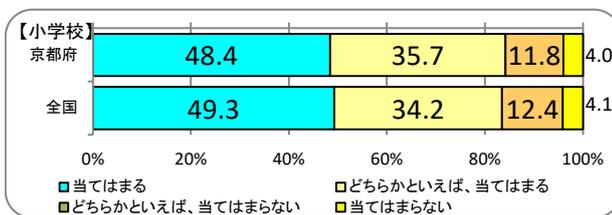
Q1：算数(数学)の勉強は好きですか



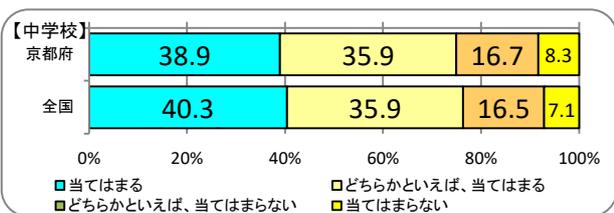
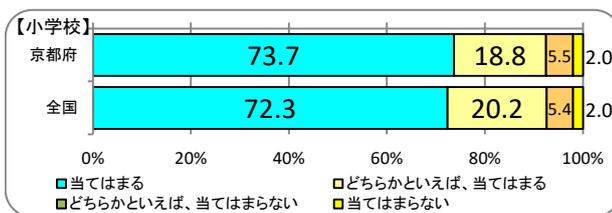
Q2：算数(数学)の勉強は大切だと思いますか



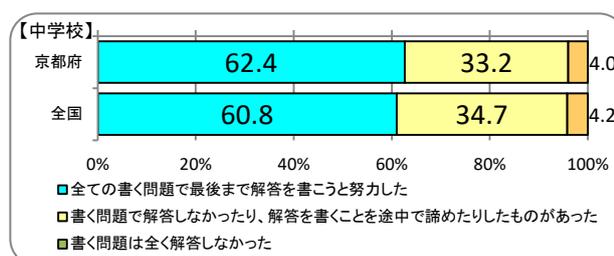
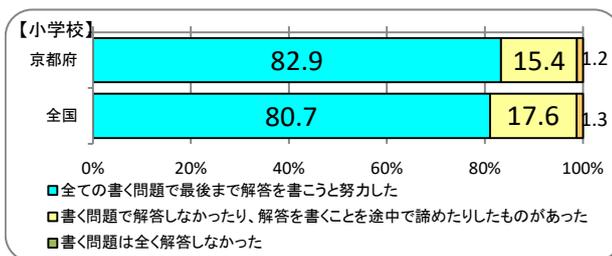
Q3：算数(数学)の授業の内容はよくわかりますか



Q4：算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



Q5：(小学校) 今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。どのように解答しましたか  
 (中学校) 今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。どのように解答しましたか

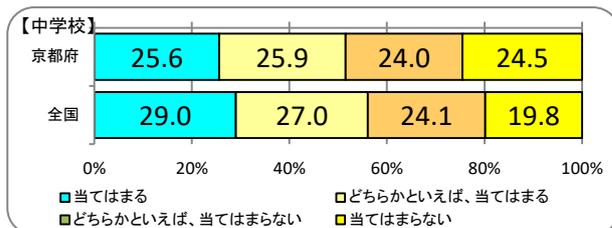


### (3) 英語への関心等

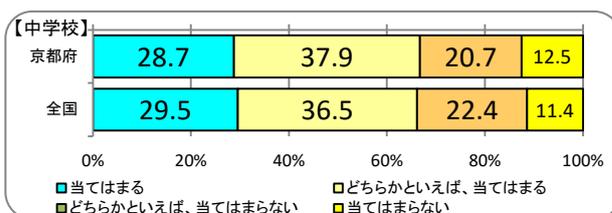
京都府のデータは京都市を除いています

Q1～5は便宜上の番号であり、実際の質問番号はP36参照

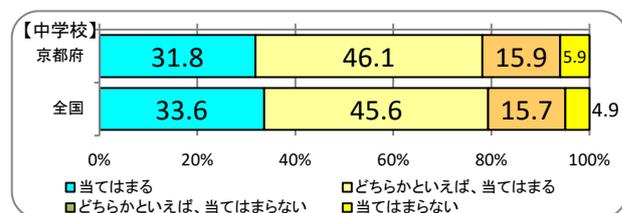
Q1：英語の勉強は好きですか



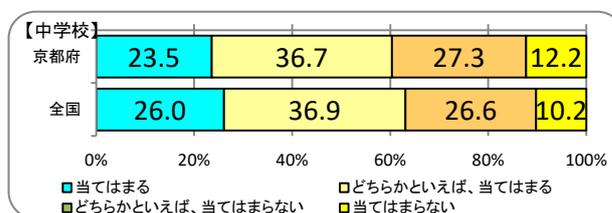
Q2：英語の授業はよく分かりますか



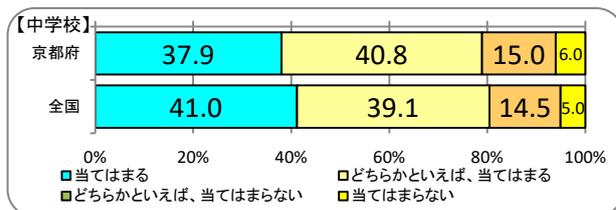
Q3：1，2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか



Q4：1，2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか



Q5：1，2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか

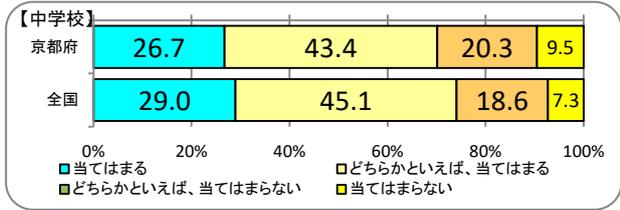
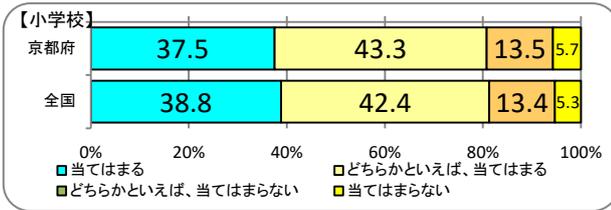


京都府のデータは京都市を除いています

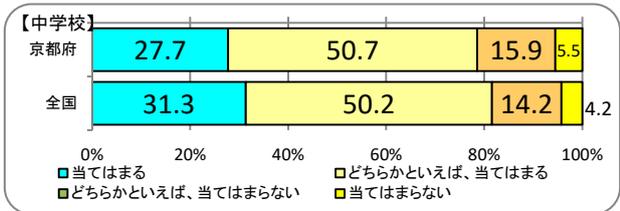
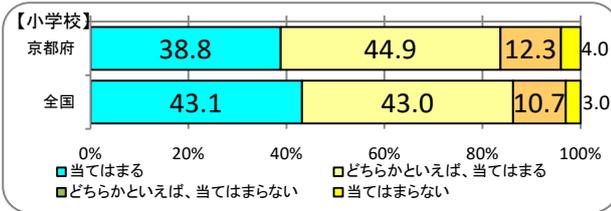
Q1～3は便宜上の番号であり、実際の質問番号はP36参照

## (4) 自己有用感

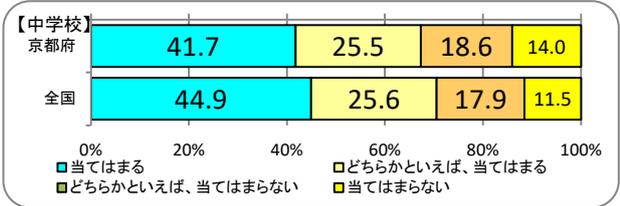
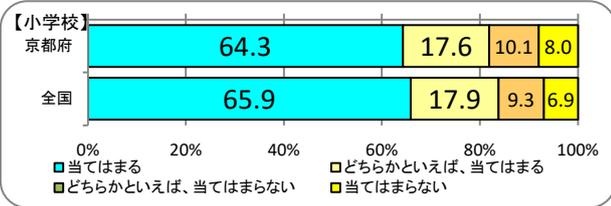
Q1：自分には、よいところがあると思いますか



Q2：先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

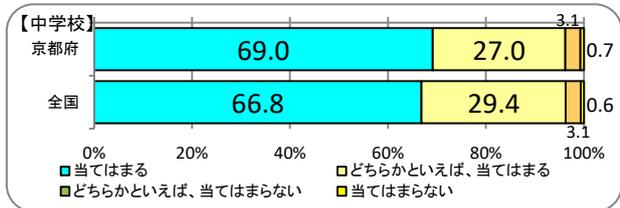
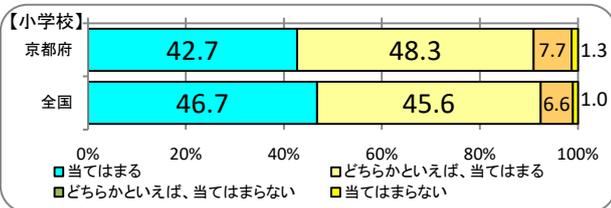


Q3：将来の夢や目標を持っていますか

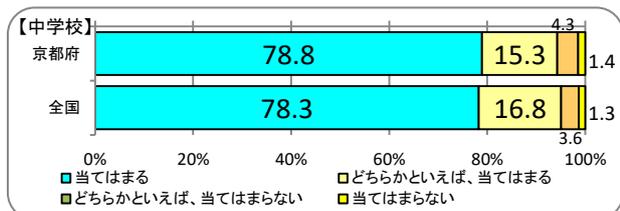
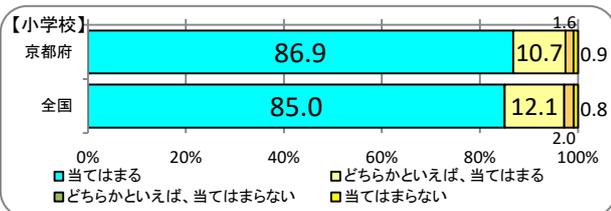


## (5) 規範意識

Q1：学校のきまり（規則）を守っていますか



Q2：いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

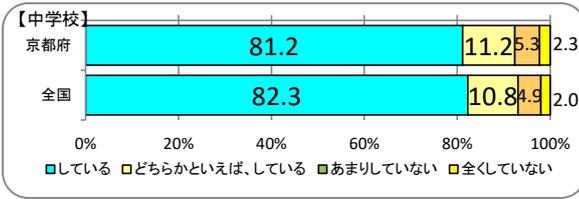
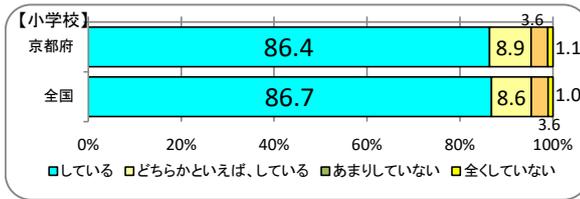


京都府のデータは京都市を除いています

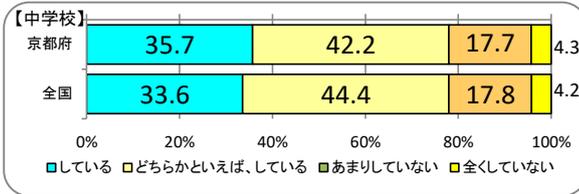
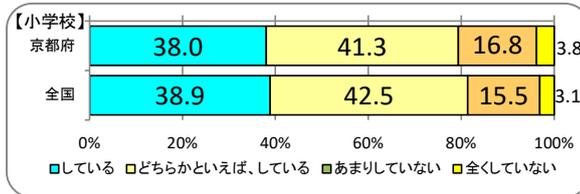
Q1～3は便宜上の番号であり、実際の質問番号はP36参照

## (6) 生活習慣

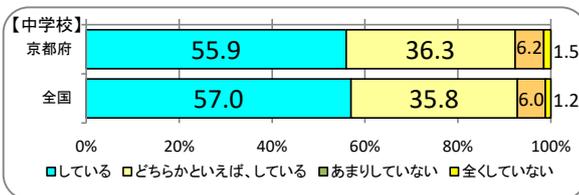
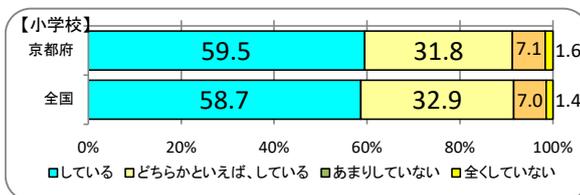
Q1：朝食を毎日食べていますか



Q2：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

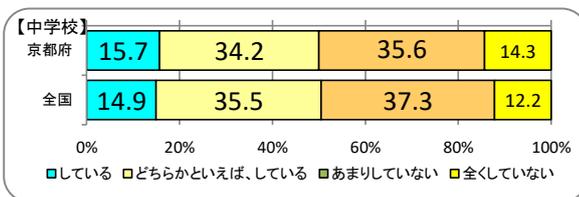
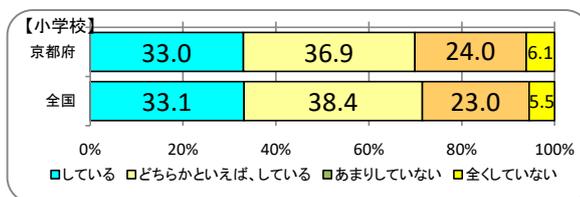


Q3：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

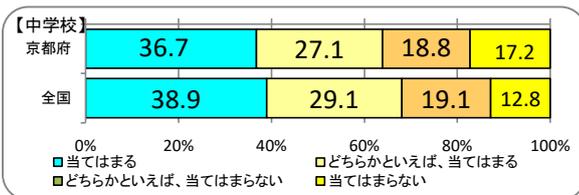
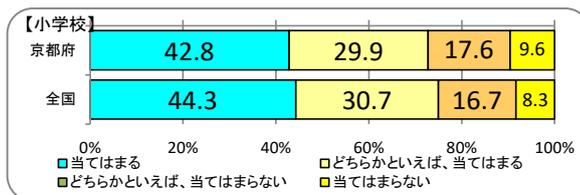


## (7) 学習習慣

Q1：家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



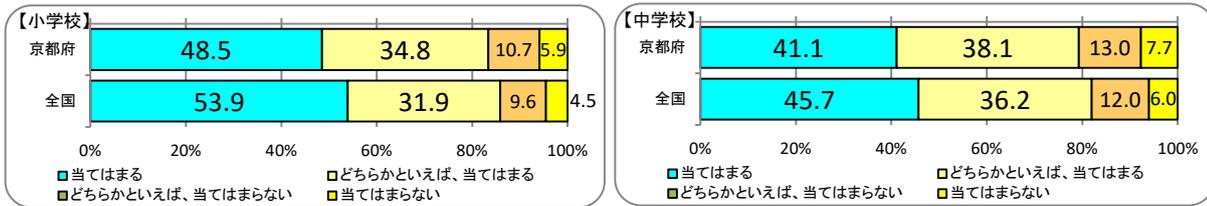
Q2：読書は好きですか



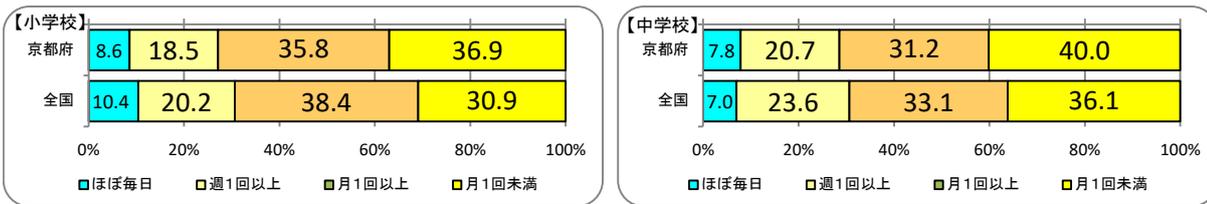
## (8) その他

京都府のデータは京都市を除いています  
Q1～5は便宜上の番号であり、実際の質問番号はP36参照

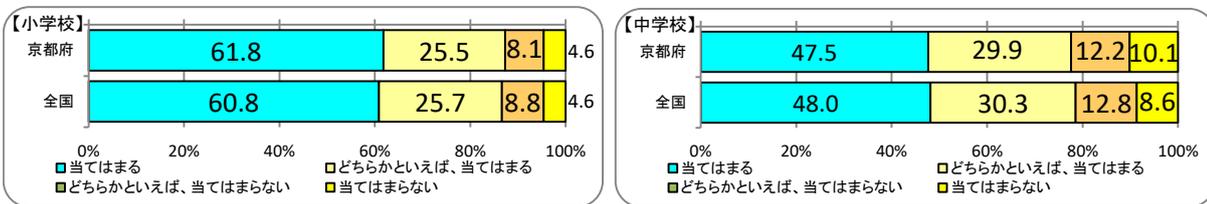
Q1：学校に行くのは楽しいと思いますか



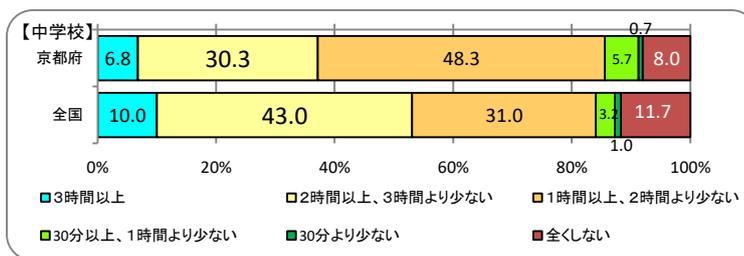
Q2：6年生までに（1、2年生のときに）受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか



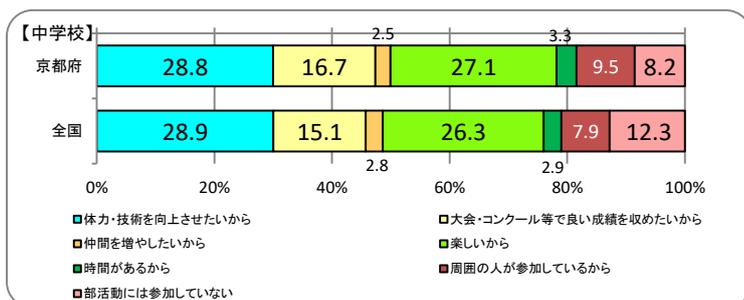
Q3：授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか



Q4：普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間，部活動をしますか



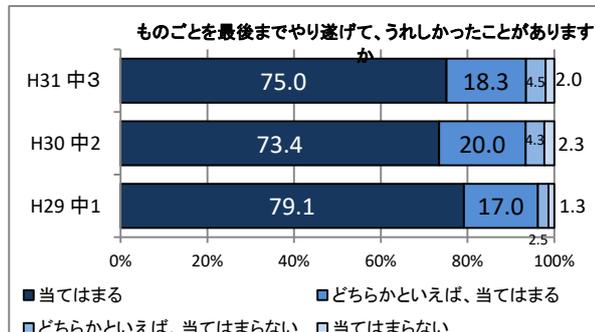
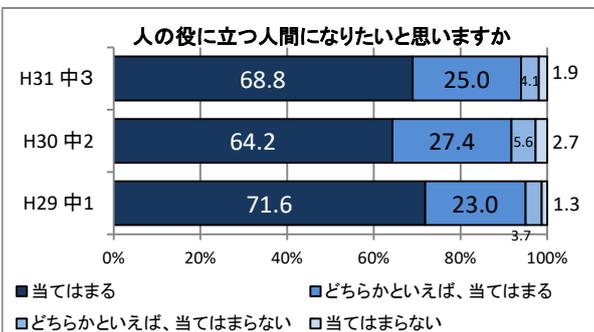
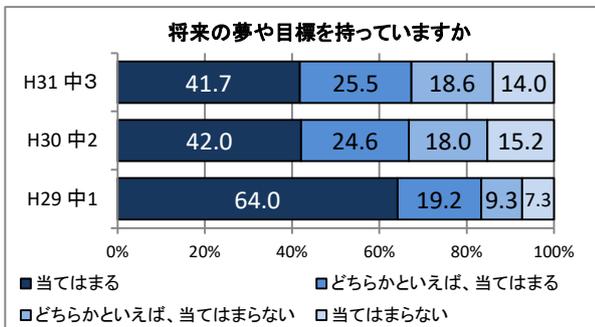
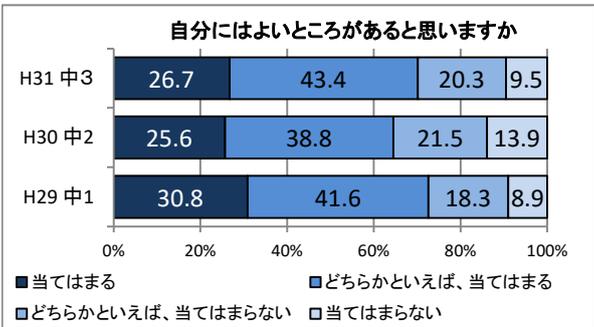
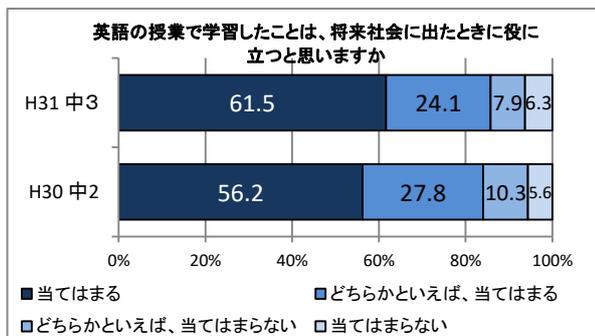
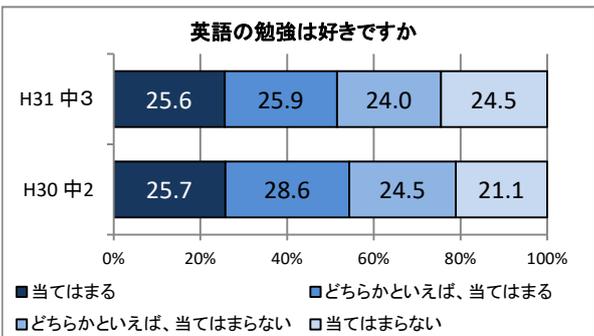
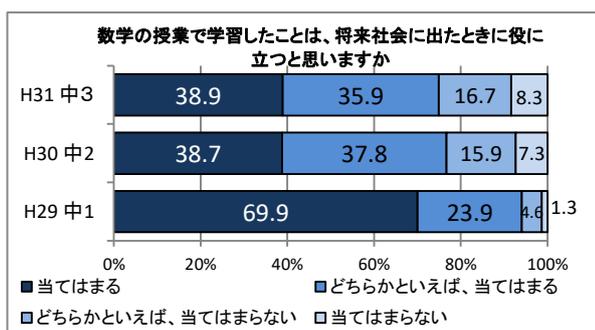
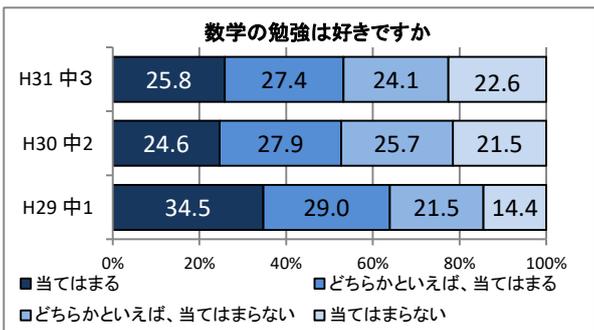
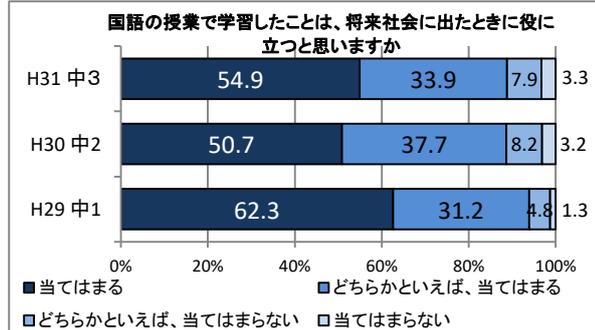
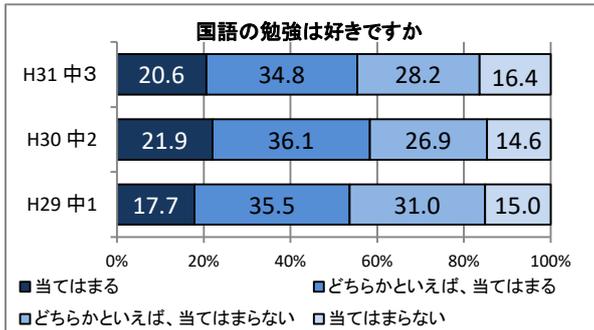
Q5：学校の部活動に参加する主な理由は、以下のうちどれですか

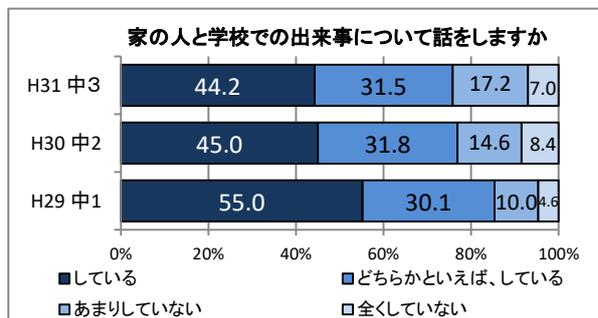
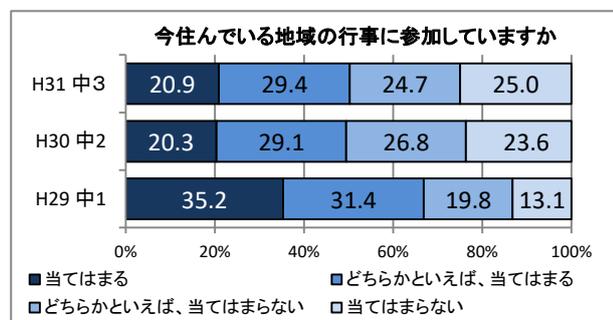
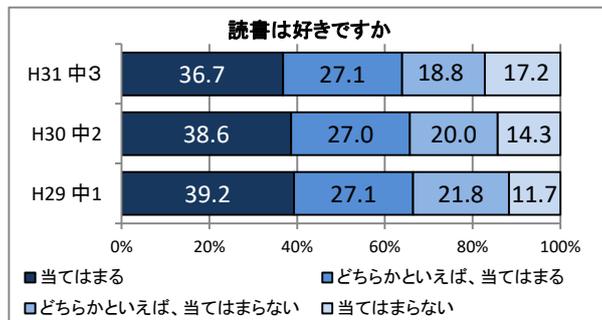
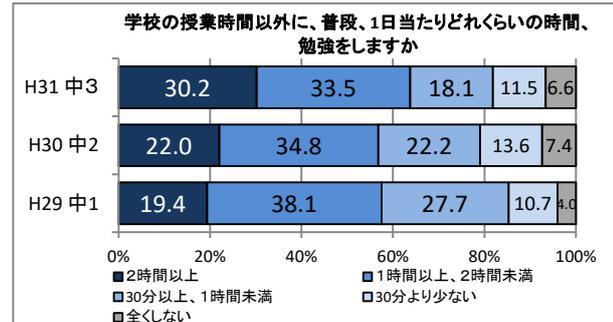
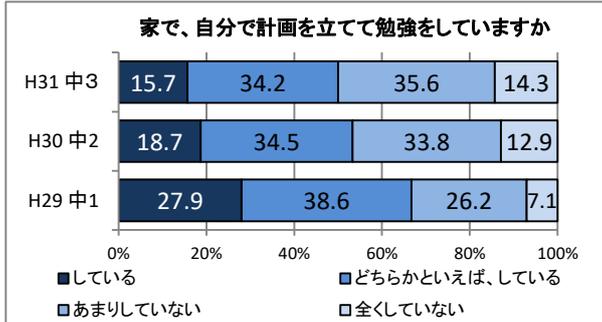
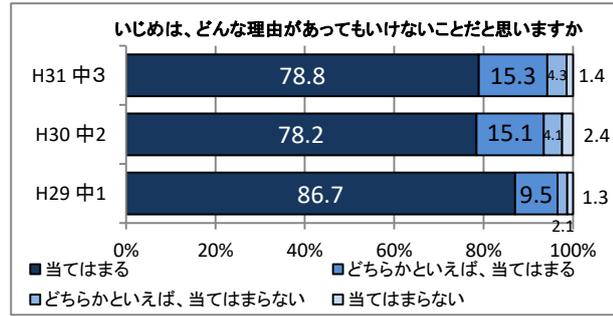
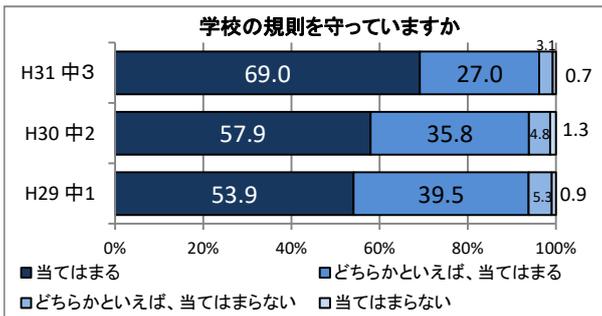
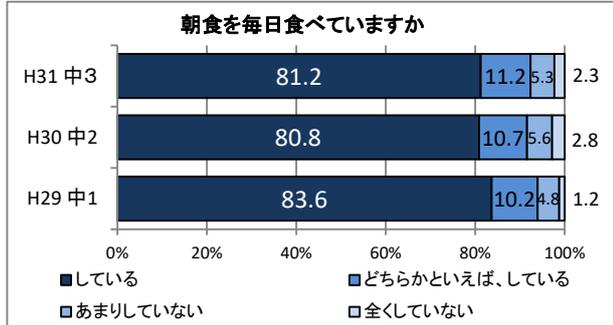
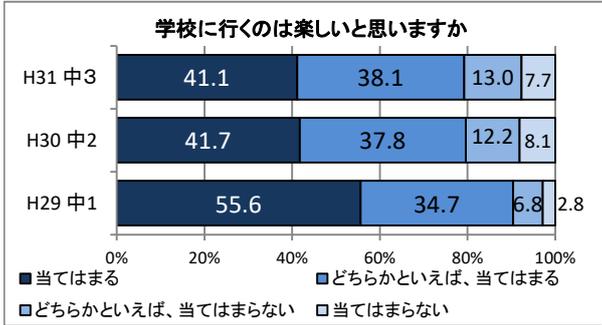
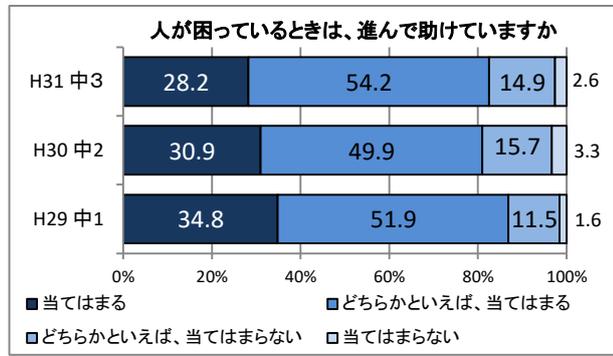
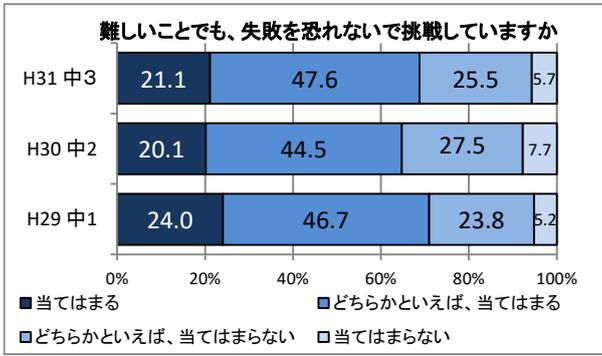


### 3 府学力診断テストと合わせた経年変化

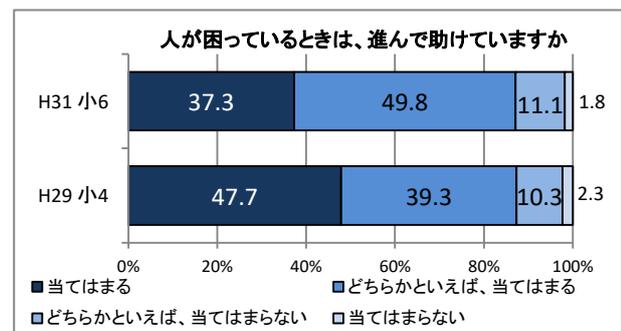
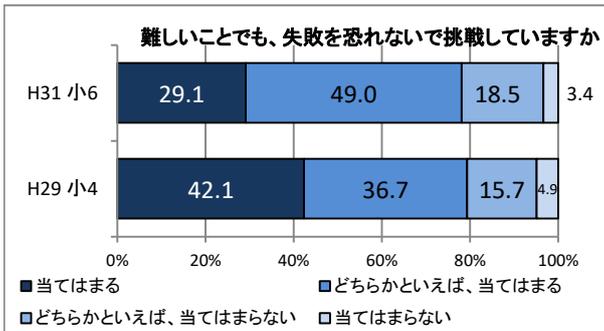
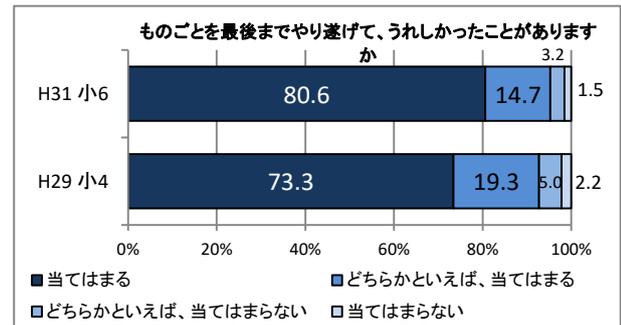
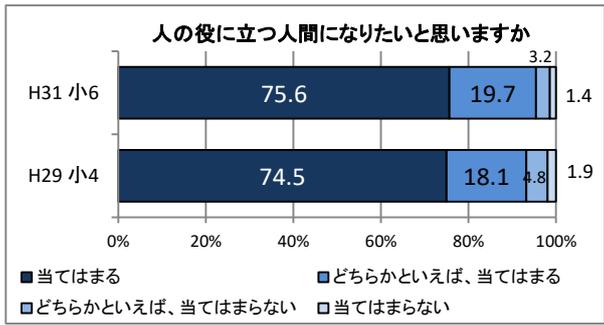
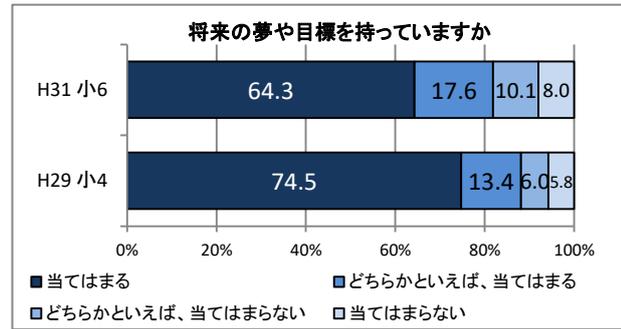
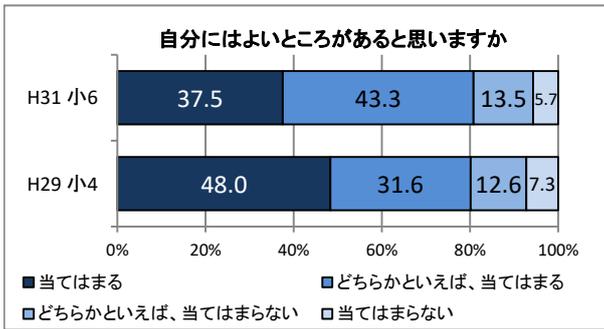
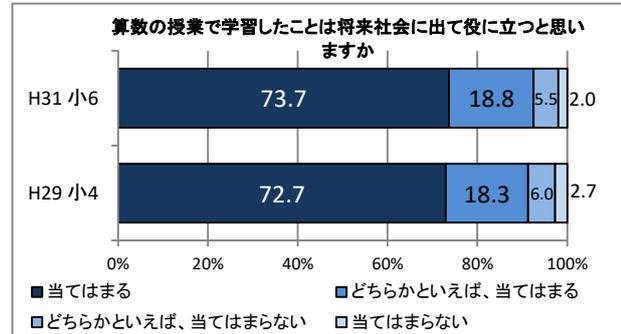
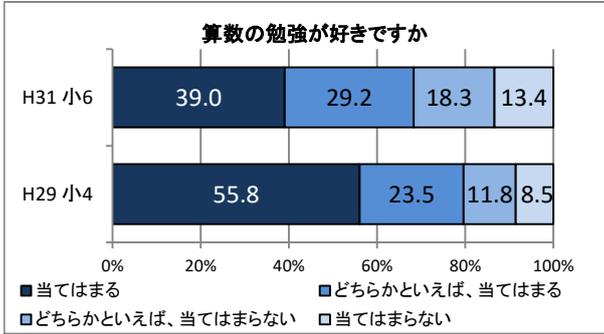
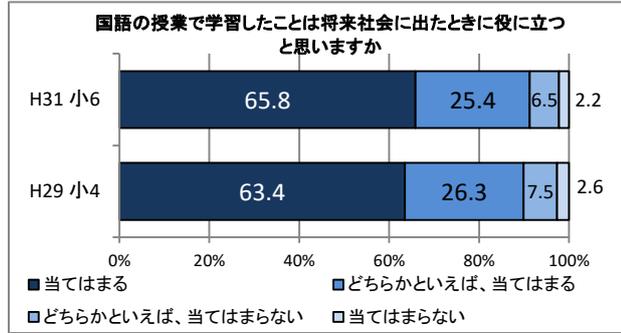
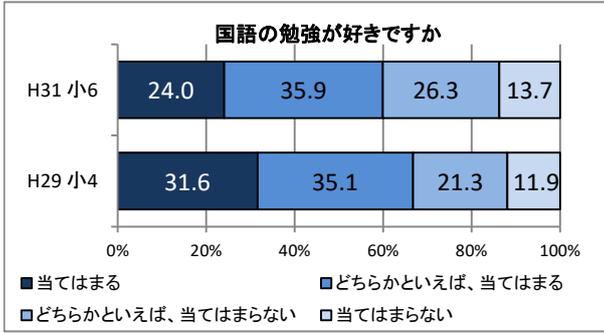
H29から京都市を除く京都府のデータが公表されたので、質問紙調査も、府学力診断テストでの質問紙調査と同じ質問なら、同じ集団の経年変化を見ることができます。

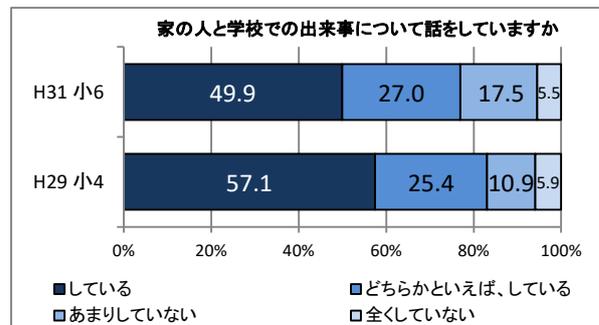
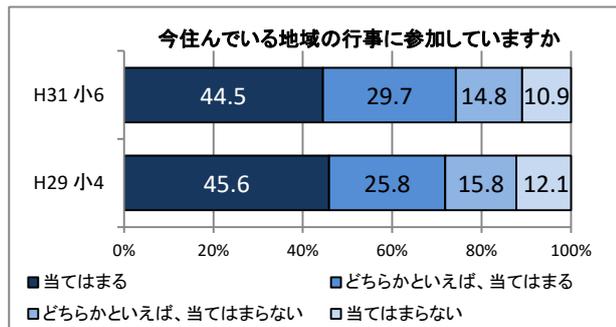
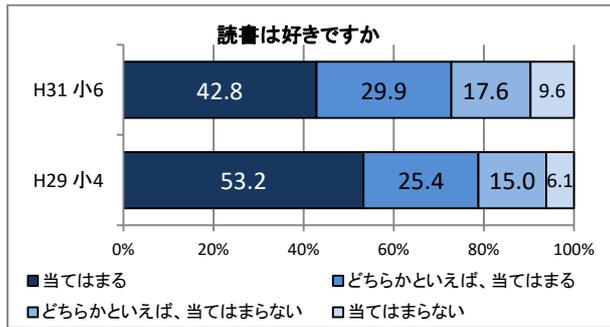
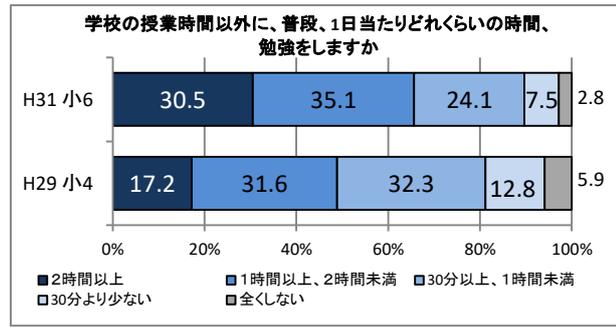
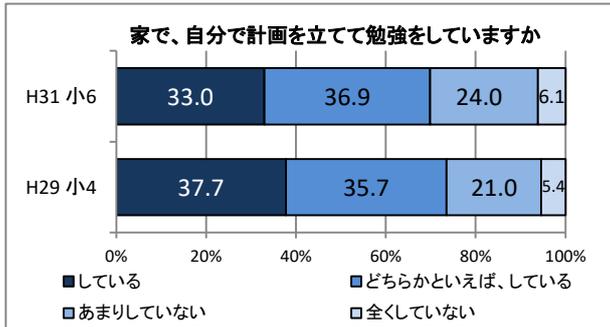
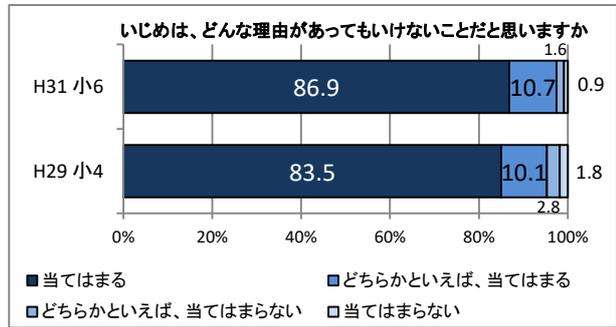
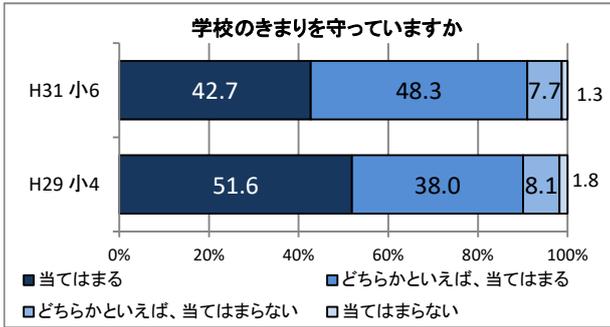
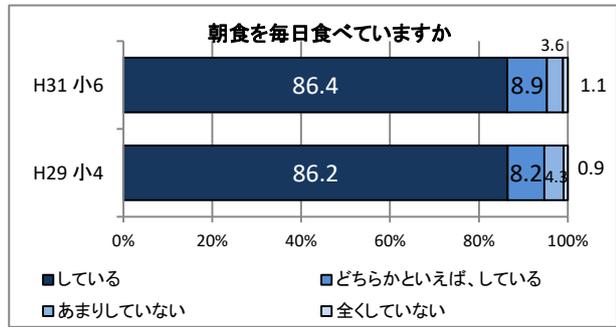
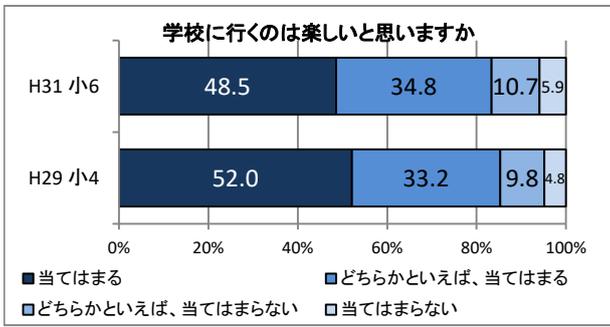
#### 質問紙 H31中3－H30中2－H29中1 の変化





# 質問紙 H31小6ーH29小4 の変化





## VI 学校質問紙調査結果から 見えてくる成果と課題

# 1 学校質問紙調査について

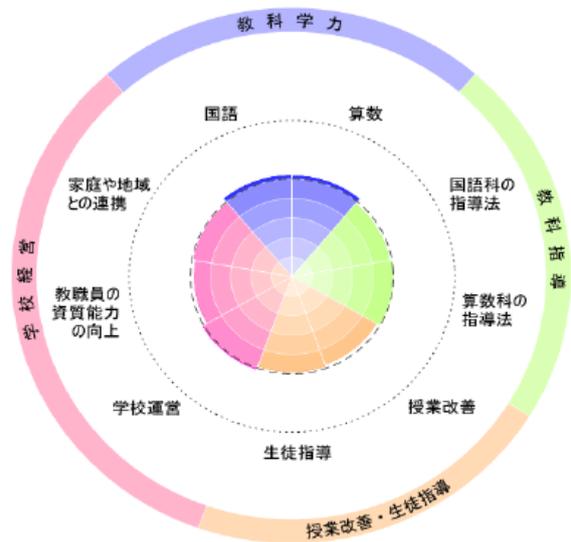
全国学力・学習状況調査では、質問紙調査項目を下記Ⅱ～Ⅳの領域に分けています。  
また、これらの領域番号ごとに京都府(京都市を除く)の結果チャートを示しています。  
各学校の結果CDにも学校ごとの結果チャートが掲載されているので、学校の現状がわかります。

## 【小学校】

＜平成31年度調査の領域名と学校質問紙の質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名		小学校学校質問紙 対応領域・項目番号
Ⅰ	1	教科学力	国語
	2		算数
Ⅱ	3	教科指導	国語科の指導法 (39)~(44)
	4		算数科の指導法 (45)~(48)
Ⅲ	5	授業改善・ 生徒指導	授業改善 (32)(37)(38)
	6		生徒指導 (9)(11)~(14)
Ⅳ	7	学校経営	学校運営 (15)~(21)
	8		教職員の資質能力の向上 (22)~(31)
	9		家庭や地域との連携 (54)~(58)

結果チャート(内側の点線が全国平均)

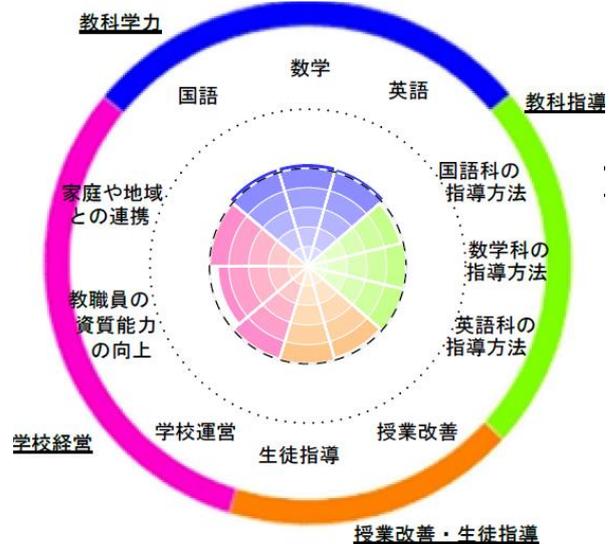


## 【中学校】

＜平成31年度調査の領域名と学校質問紙の質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名		中学校学校質問紙 対応領域・項目番号
Ⅰ	1	教科学力	国語
	2		数学
	3		英語
Ⅱ	4	教科指導	国語科の指導方法 (40)~(45)
	5		数学科の指導方法 (46)~(49)
	6		英語科の指導方法 (50)~(58)
Ⅲ	7	授業改善・ 生徒指導	授業改善 (33)(37)(38)
	8		生徒指導 (9), (11)~(14)
Ⅳ	9	学校経営	学校運営 (15)~(21)
	10		教職員の資質能力の向上 (23)~(32)
	11		家庭や地域との連携 (68)~(72)

結果チャート(内側の点線が全国平均)



結果チャートに示された京都府(京都市を除く)の傾向を、この領域ごとに次ページから見ていきます。

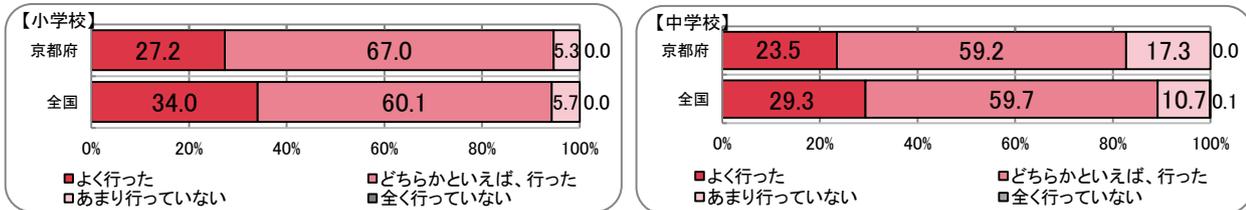
## 2 学校質問紙の調査結果について

京都府のデータは京都市を除いています

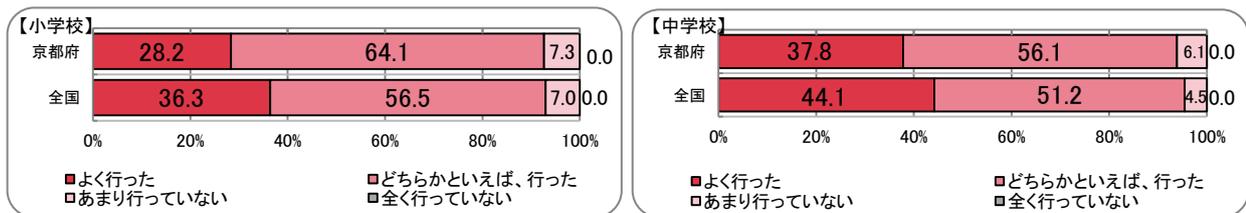
Q1～3は便宜上の番号であり、実際の質問番号はP48参照

### (1) 国語科の指導

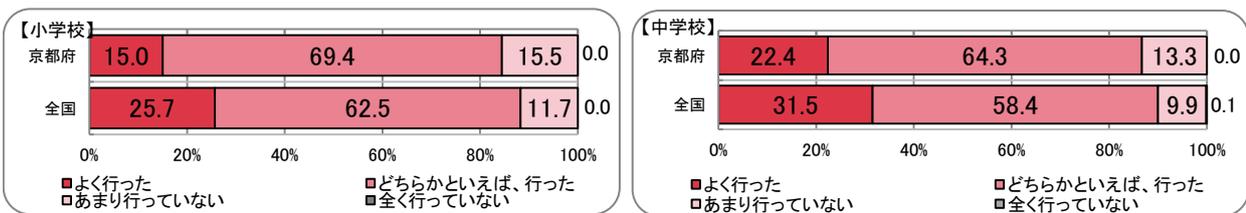
**Q1: 調査対象学年の児童(生徒)に対する国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか**



**Q2: 調査対象学年の児童(生徒)に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか**

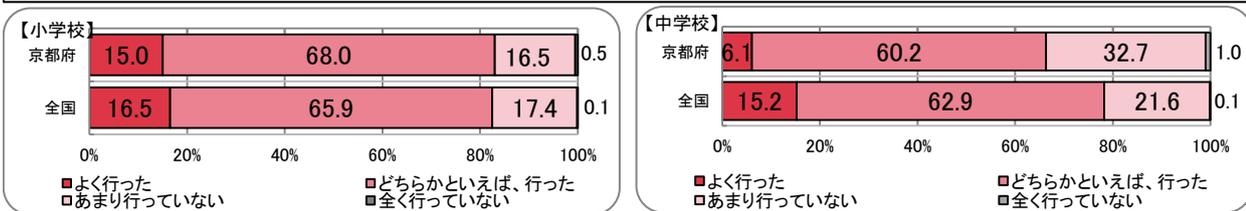


**Q3: 調査対象学年の児童(生徒)に対する国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか**

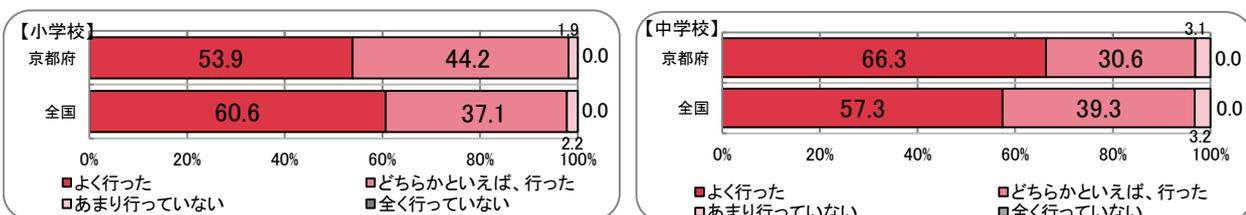


### (2) 算数(数学)科の指導法

**Q1: 調査対象学年の児童(生徒)に対する算数(数学)の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか**



**Q2: 調査対象学年の児童(生徒)に対する算数(数学)の指導として、前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか**

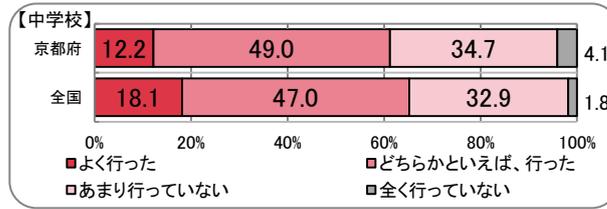


### (3) 英語の指導法

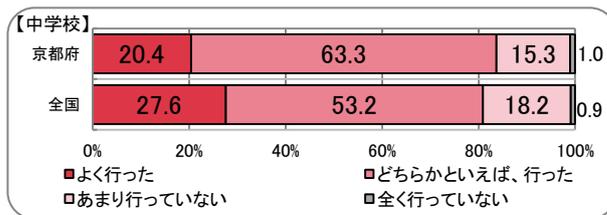
京都府のデータは京都市を除いています

Q1～5は便宜上の番号であり、実際の質問番号はP48参照

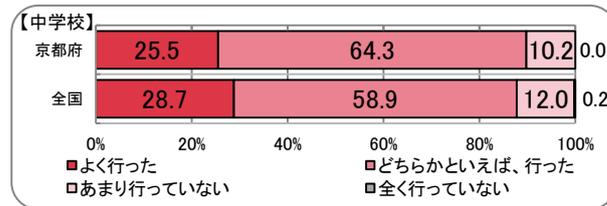
**Q1: 調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか**



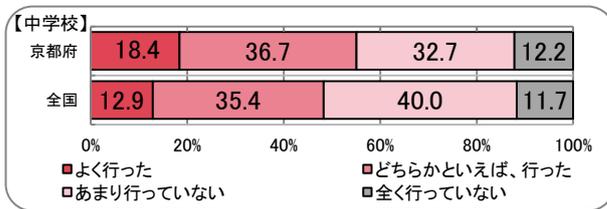
**Q2: 調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、英語でスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行いましたか**



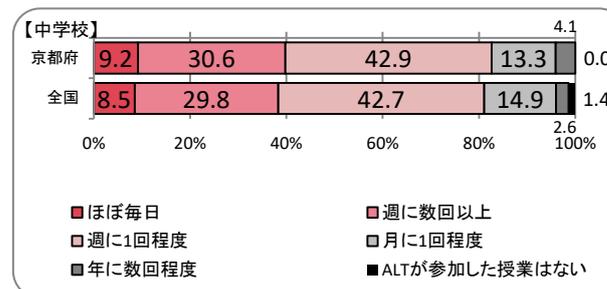
**Q3: 調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動を行いましたか**



**Q4: 前年度までに、英語教育に関して、お互いの授業を見て指導方法や指導内容を学び合うなどの連携を小学校とどの程度行いましたか**



**Q5: 年間の授業のうち、どのくらいの頻度でALT(外国語指導助手)を活用した授業を行いましたか**

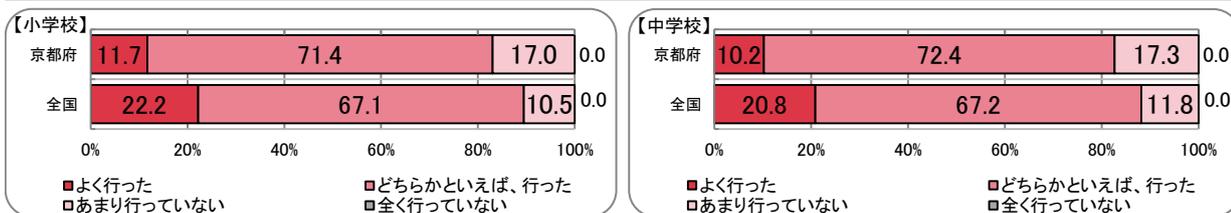


京都府のデータは京都市を除いています

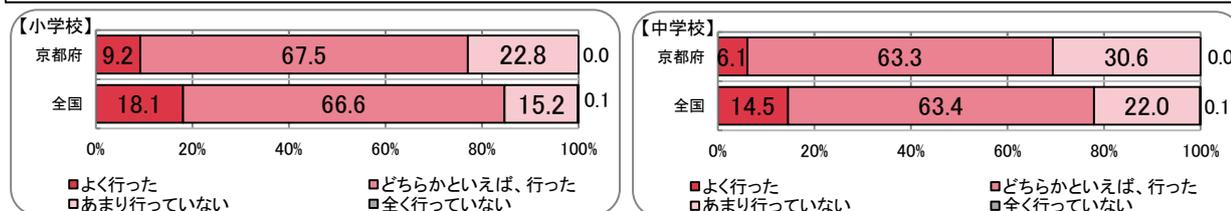
Q1～3は便宜上の番号であり、実際の質問番号はP48参照

## (4) 授業改善

**Q1: 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか**

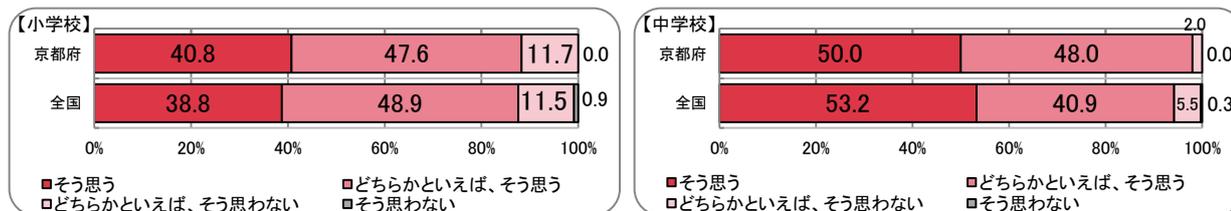


**Q2: 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか**

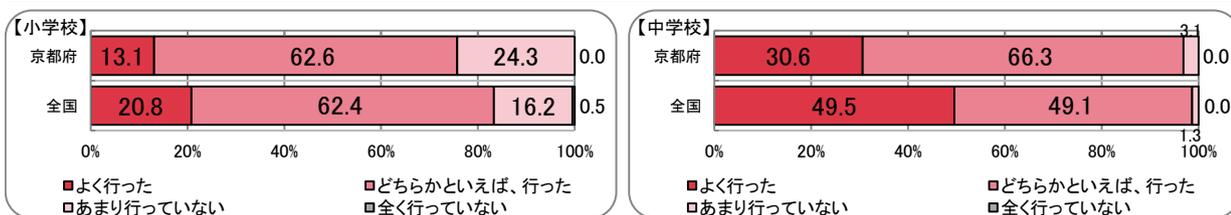


## (5) 生徒指導

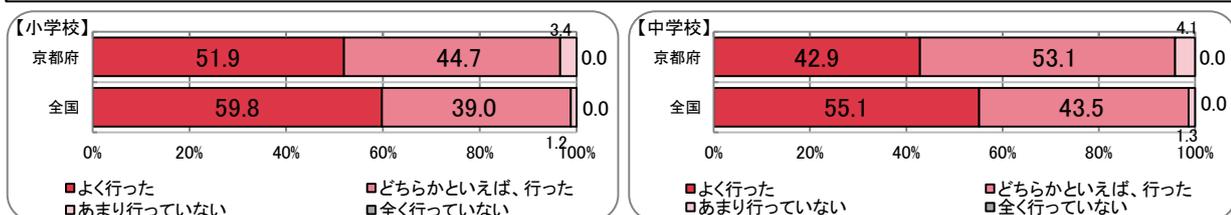
**Q1: 調査対象学年の児童(生徒)は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか**



**Q2: 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか**



**Q3: 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童(生徒)一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか**

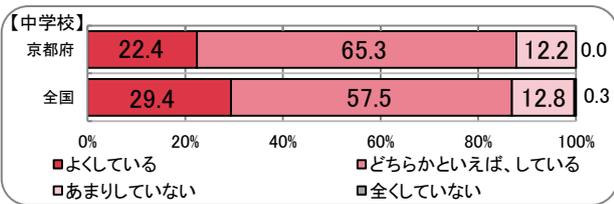
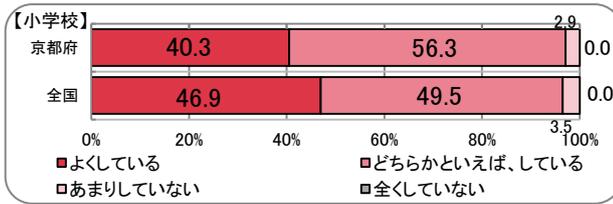


京都府のデータは京都市を除いています

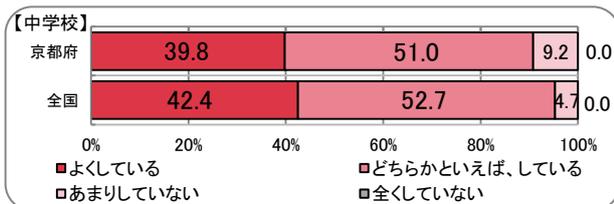
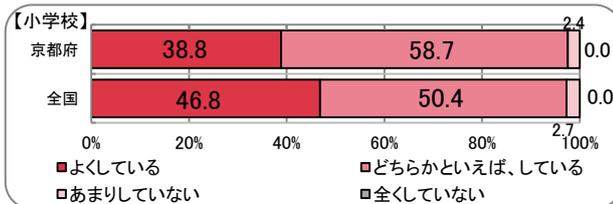
Q1～3は便宜上の番号であり、実際の質問番号はP48参照

## (6) 学校運営

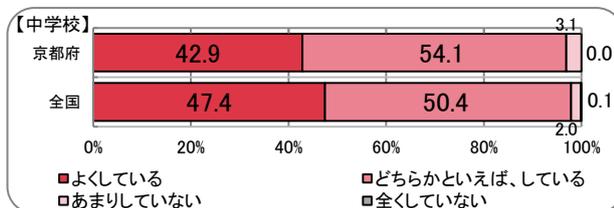
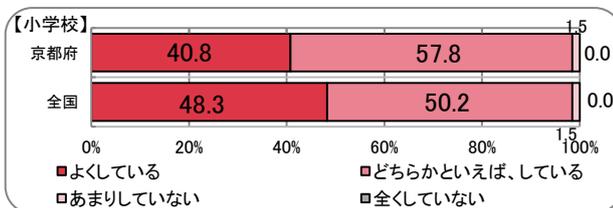
**Q1: 調指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか**



**Q2: 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか**

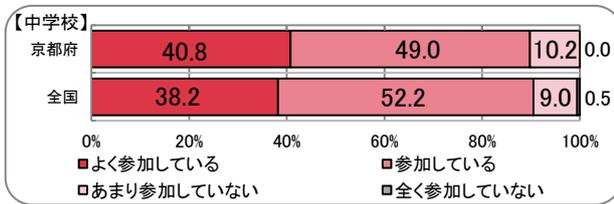
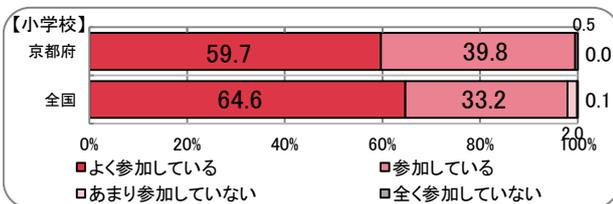


**Q3: 学校として業務改善に取り組んでいますか**

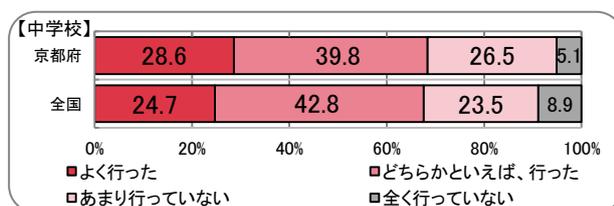
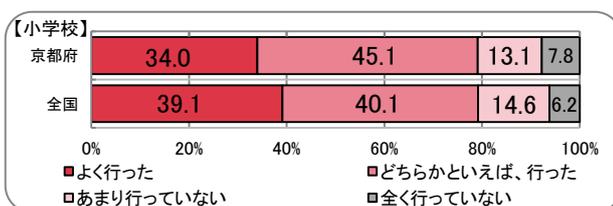


## (7) 家庭や地域との連携

**Q1: 保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか**



**Q2: 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、Q1の質問にあるような保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか**

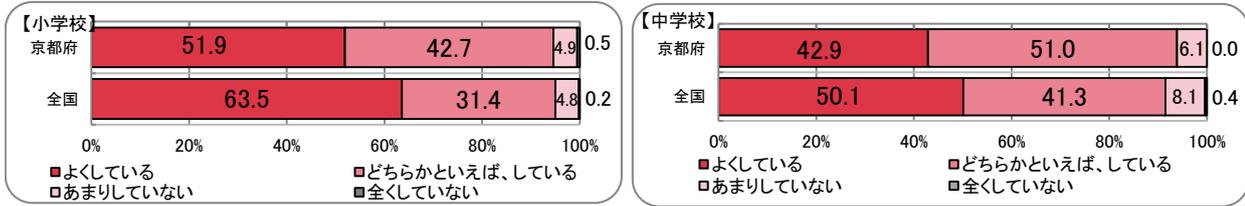


## (8) 教職員の資質能力の向上

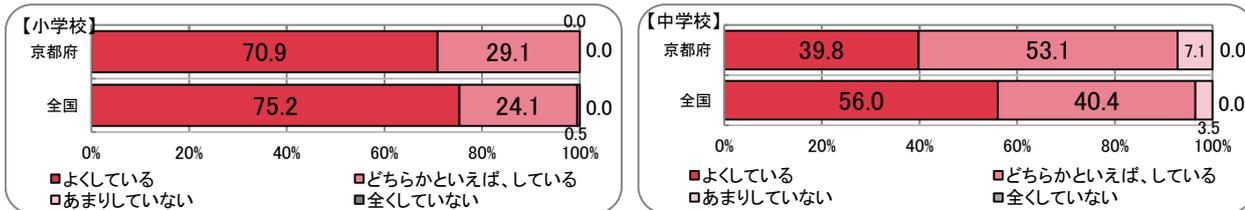
京都府のデータは京都市を除いています

Q1～5は便宜上の番号であり、実際の質問番号はP48参照

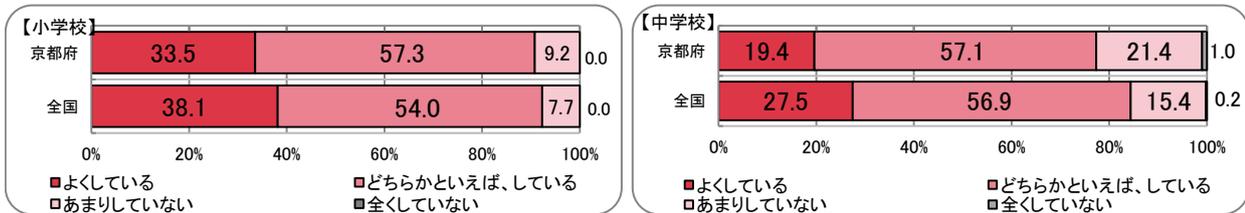
### Q1: 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか



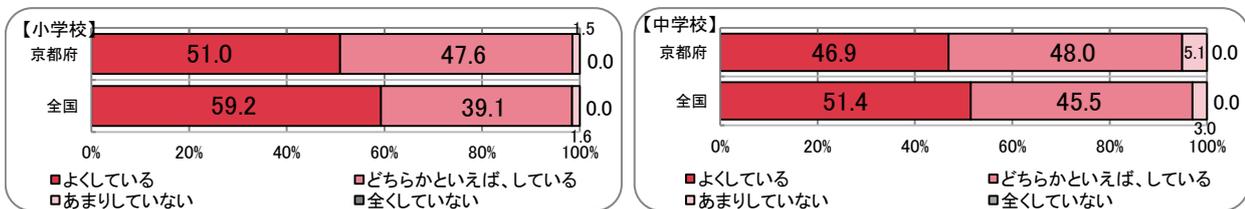
### Q2: 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか



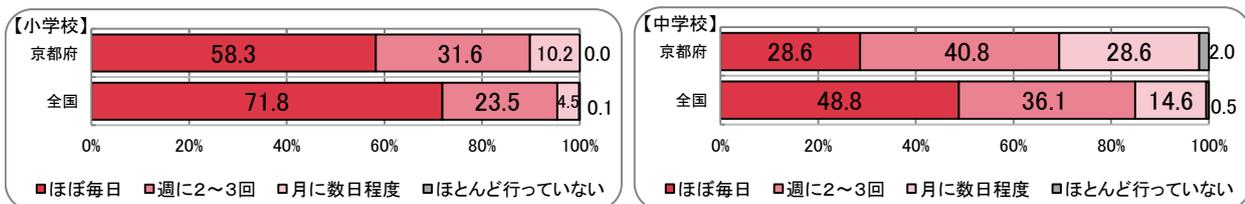
### Q3: 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか



### Q4: 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか



### Q5: 校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか

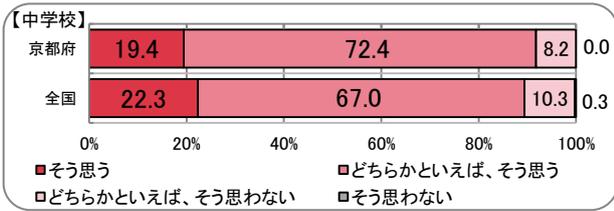
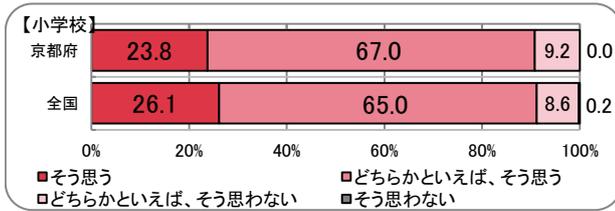


## (9) その他の項目

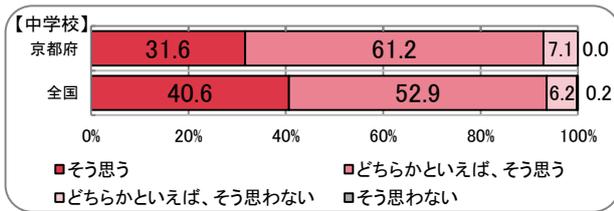
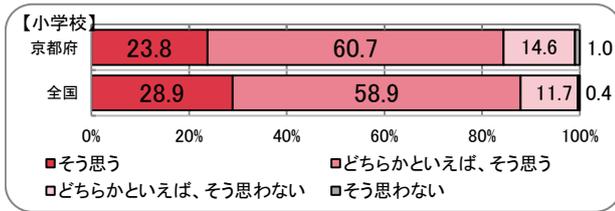
京都府のデータは京都市を除いています

Q1～4は便宜上の番号であり、実際の質問番号はP48参照

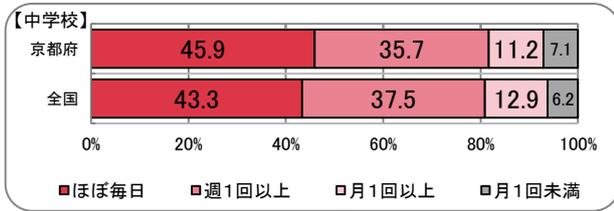
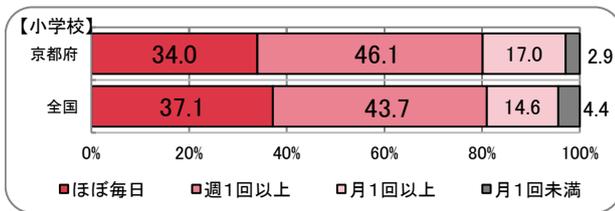
**Q1: 調査対象学年の児童(生徒)は、熱意をもって勉強していると思いますか**



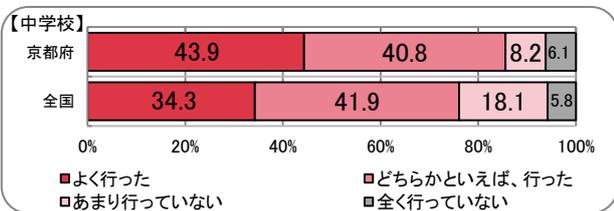
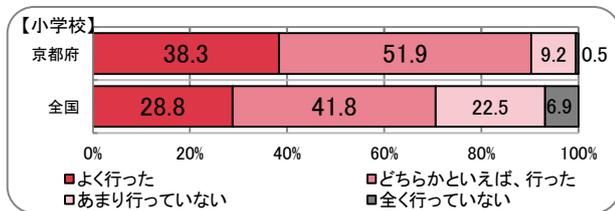
**Q2: 調査対象学年の児童(生徒)は、礼儀正しいと思いますか**



**Q3: 調査対象である児童(生徒)に対する指導において、前年度に、教員が大型提示装置(プロジェクター、電子黒板等)等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか**



**Q4: 前年度までに、近隣等の中(小)学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか**



## VII 提言

# 1 質問紙調査の分析から

『全国学力・学習状況調査の質問紙調査結果【報告書】から各教科の平均正答率と相関が見られた質問項目を挙げると・・・（以下、（ ）内は質問番号）』

## 国語

- ・国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている（小42，中45）
- ・国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由〔根拠〕を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している（小43，中46）
- ・国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいる（小44，中47）
- ・今回の国語の問題について、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した（小45，中48）

## 算数・数学

### 【小学校】

- 今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題では、最後まで解答を書こうと努力をした（56）

### 【中学校】

- 今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題では、最後まで解答を書こうと努力した。（53）

## 英語

- ・1，2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う（60）
- ・1，2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う（61）
- ・1，2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思う（62）
- ・1，2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思う（63）
- ・1，2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思う（64）
- ・1，2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思う（65）
- ・1，2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思う（66）

『さらに、府教委の分析と併せて、以下のことがわかりました。』

## 1 各教科とそれに関わる言語活動に関わる項目とに相関関係がある

## 2 当該教科と、当該教科以外の言語活動に関わる項目とも相関関係がある

例：国語の平均正答率が高い学校は、算数（数学）の言語活動に関わる質問項目と高い相関がある

・・・学校全体で、授業で言語活動を積極的に取り組んでいる学校ほど、平均正答率が高い

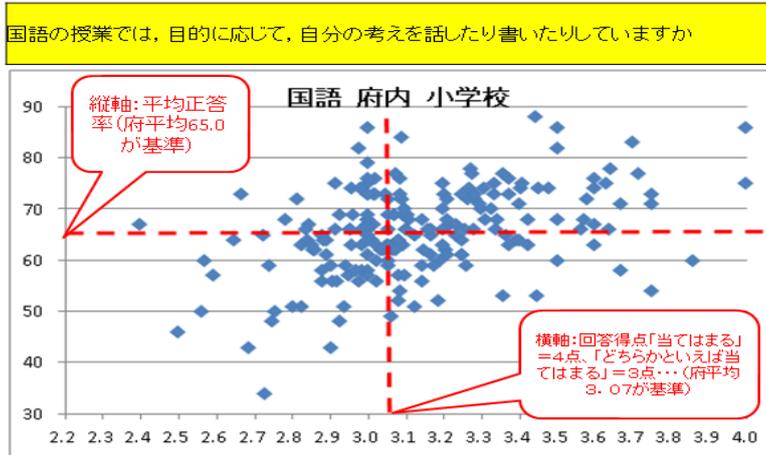
『これらの分析を基に、府内各学校の状況を、散布図で見ることとします。』

# 各教科の平均正答率と質問「言語活動」の散布図

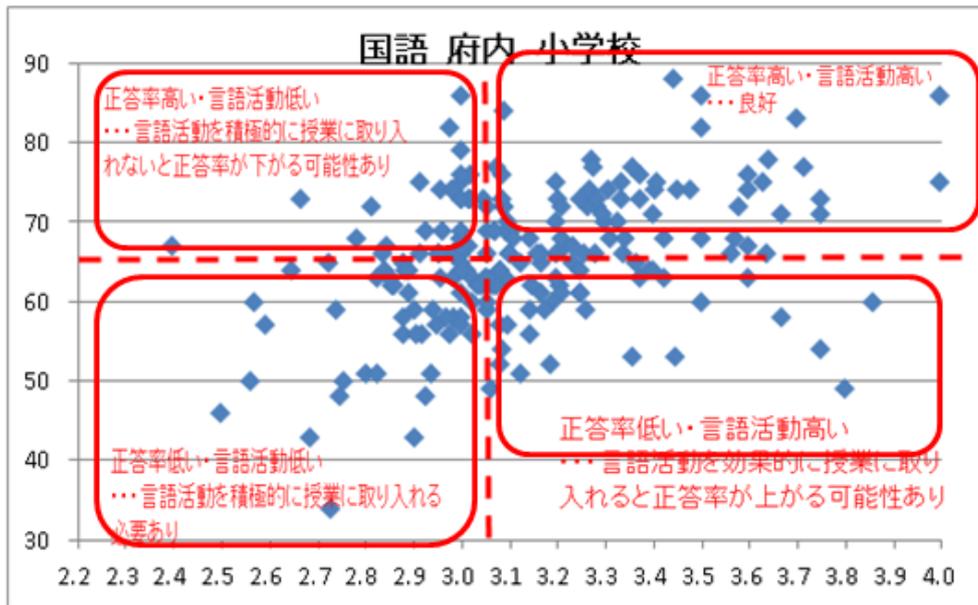
各教科ごとに以下の言語活動を表す質問との散布図を見ます。質問については右記の計算をしています。

- ・当てはまる=4点
- ・どちらかといえば当てはまる=3点
- ・どちらかといえば当てはまらない=2点
- ・当てはまらない=1点

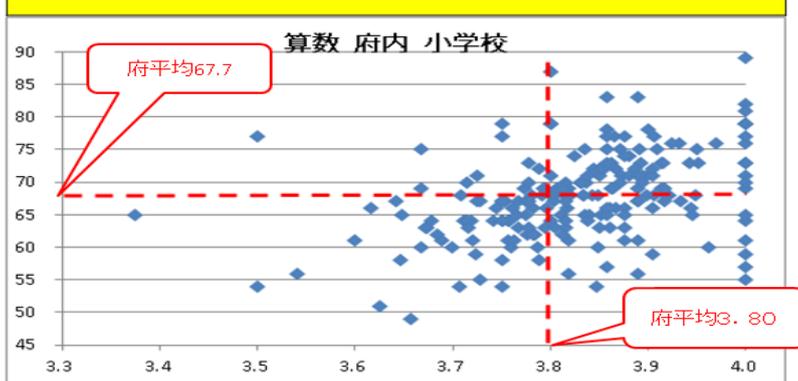
## 【小学校】



この散布図にある学校はこのようにグループ分けができます

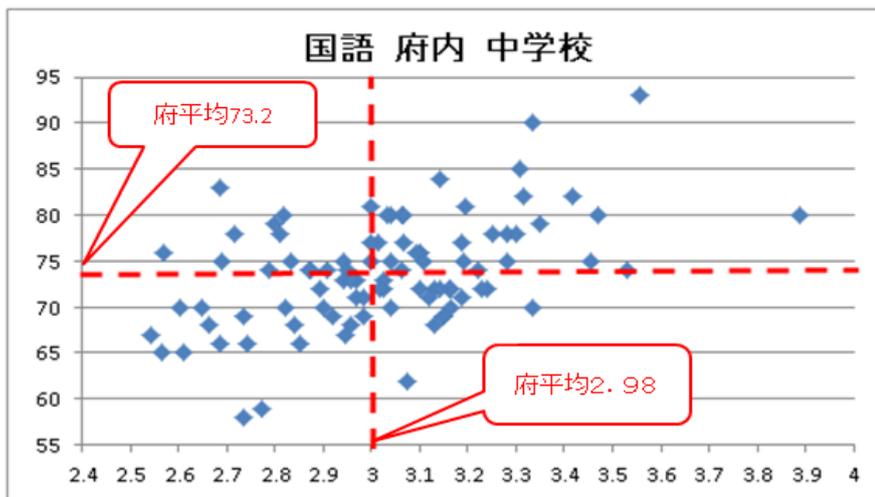


今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。どのように解答しましたか

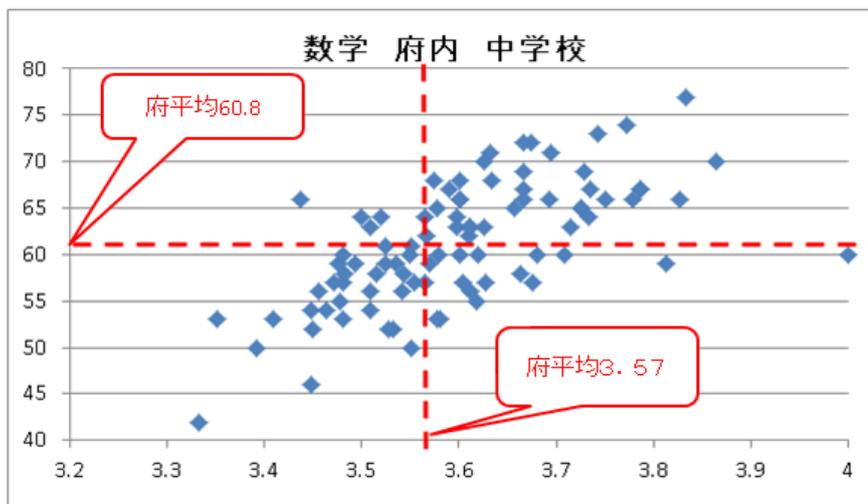


【中学校】

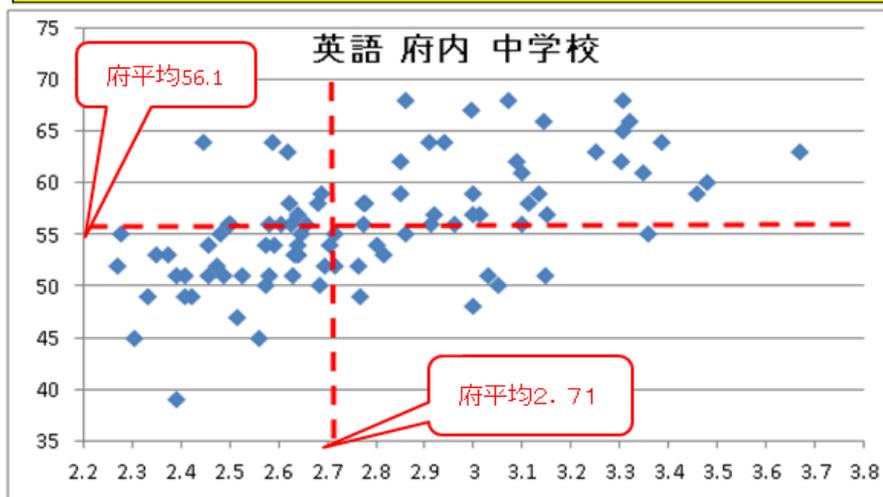
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか



今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。どのように解答しましたか



1, 2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか

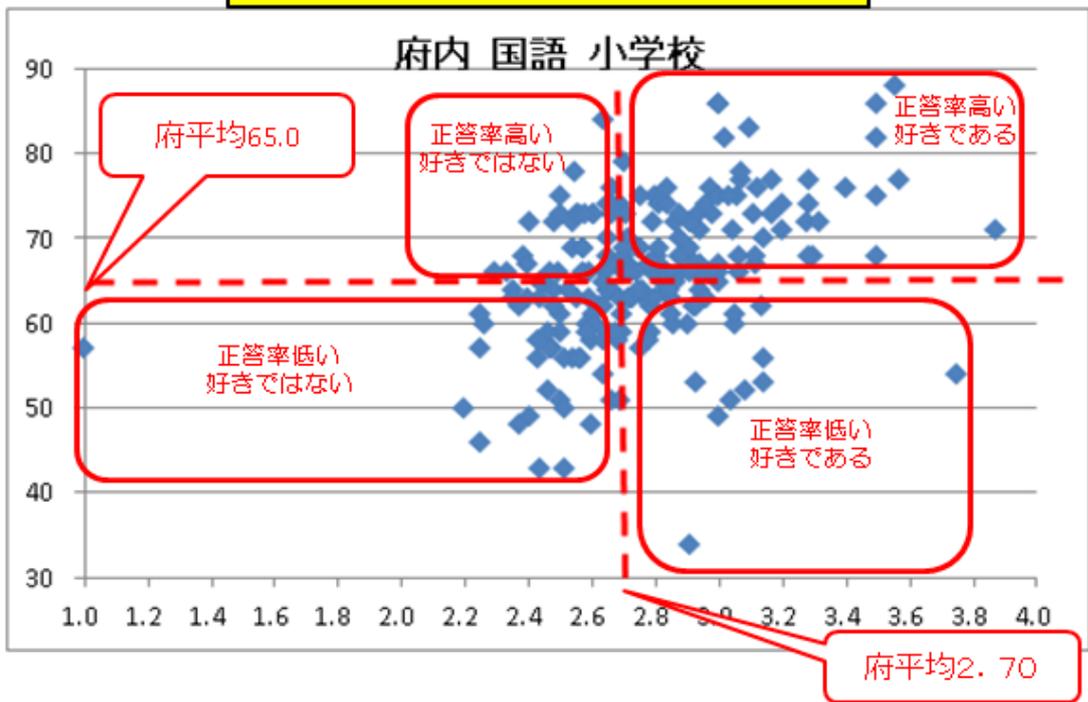


# 各教科の平均正答率と質問「教科の勉強が好き」の散布図

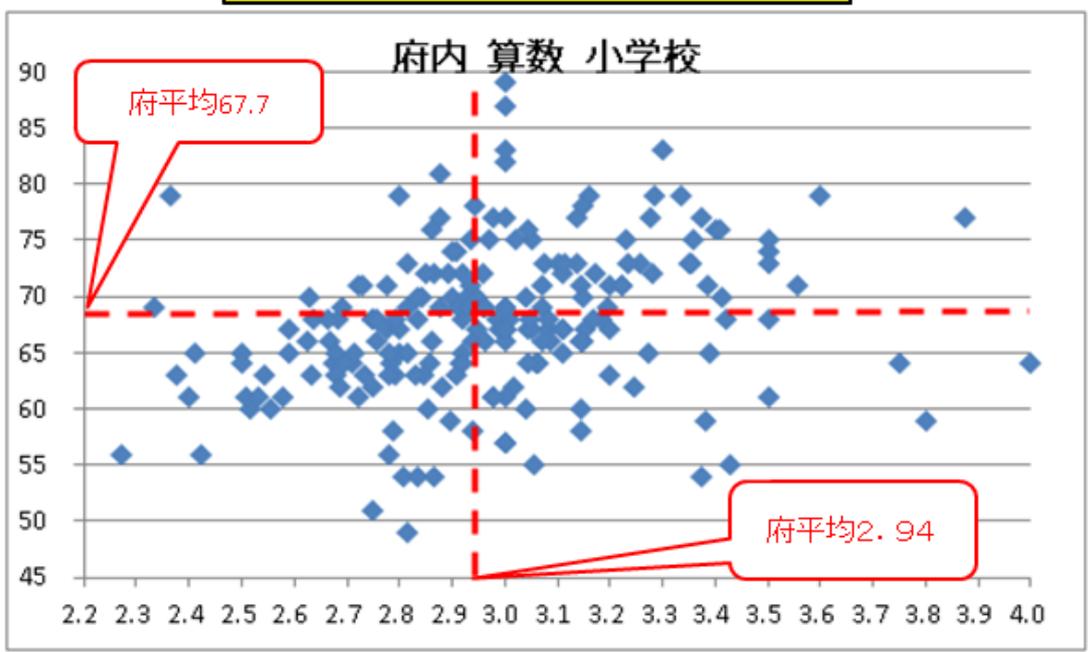
【小学校】

さらに「教科の分析が好き」との散布図を見てください

## 国語の勉強は好きですか

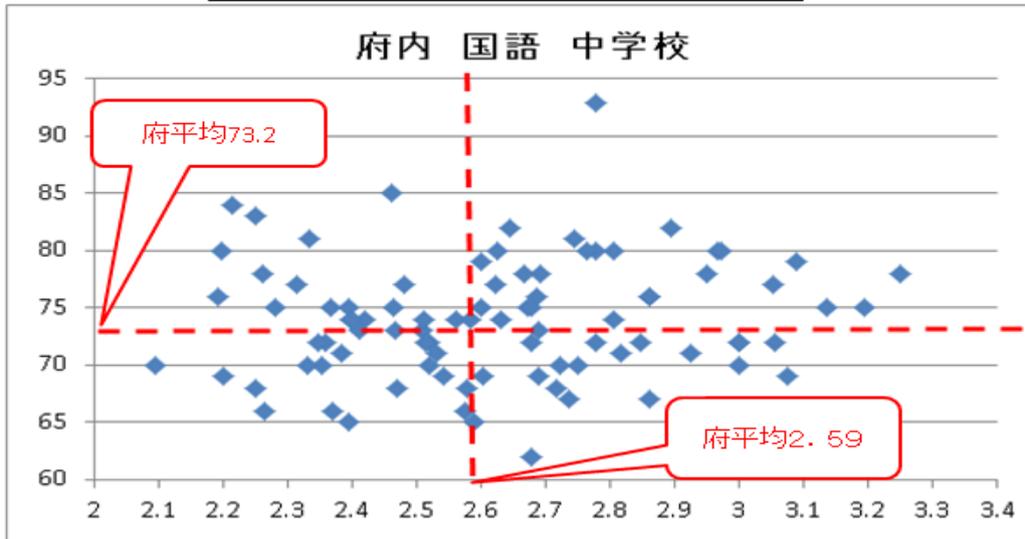


## 算数の勉強は好きですか

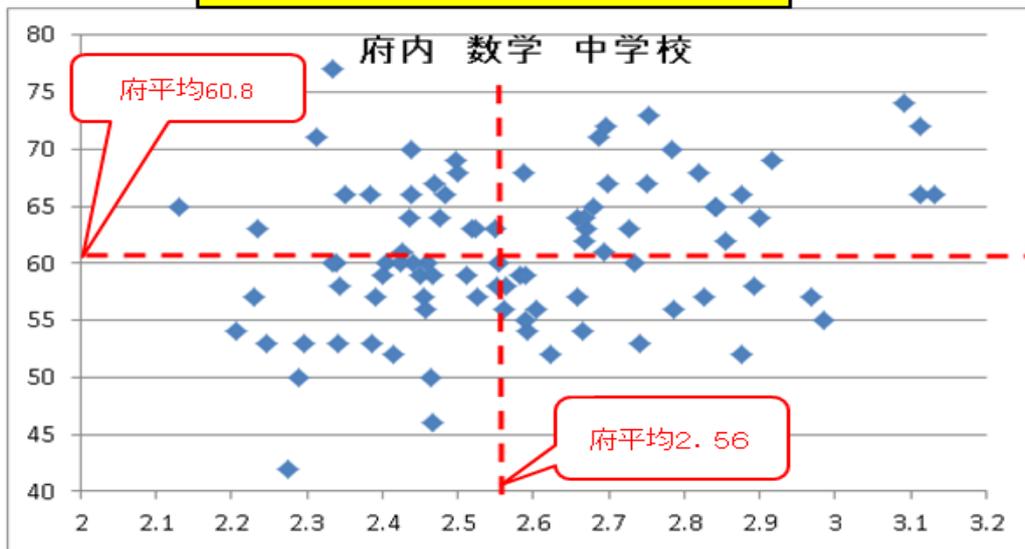


【中学校】

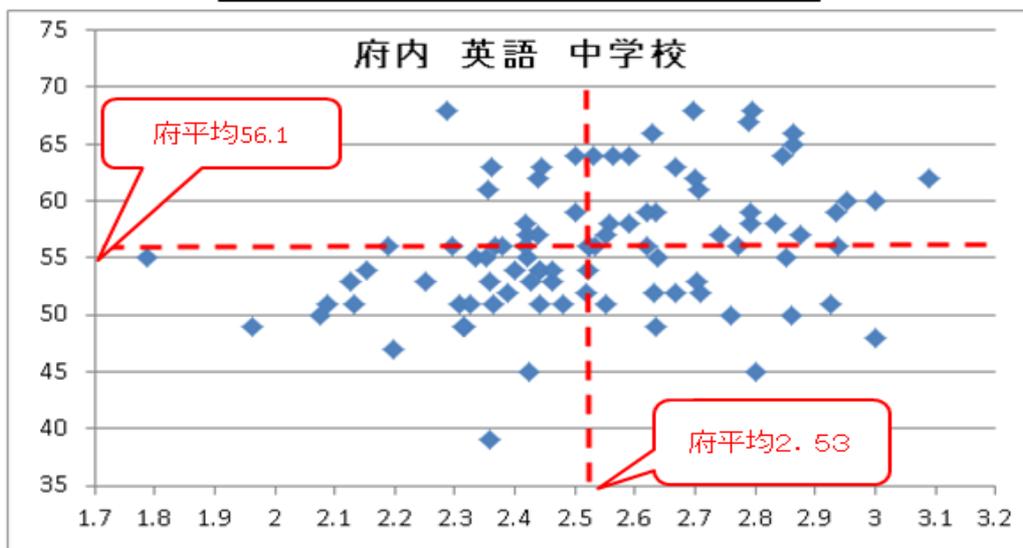
国語の勉強は好きですか



数学の勉強は好きですか



英語の勉強は好きですか

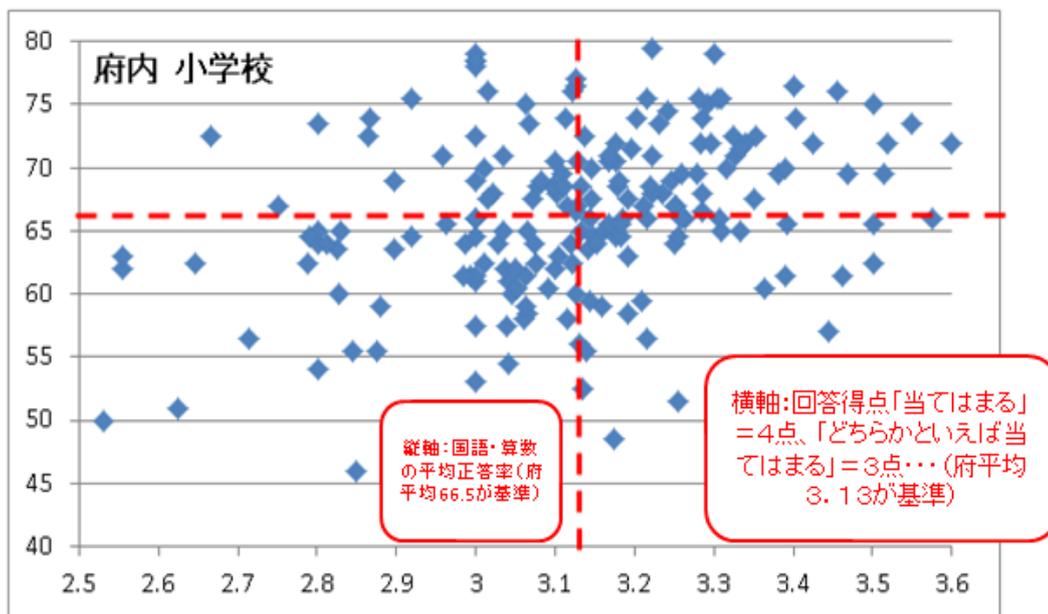


## 各教科の平均正答率と質問「自己有用感」の散布図

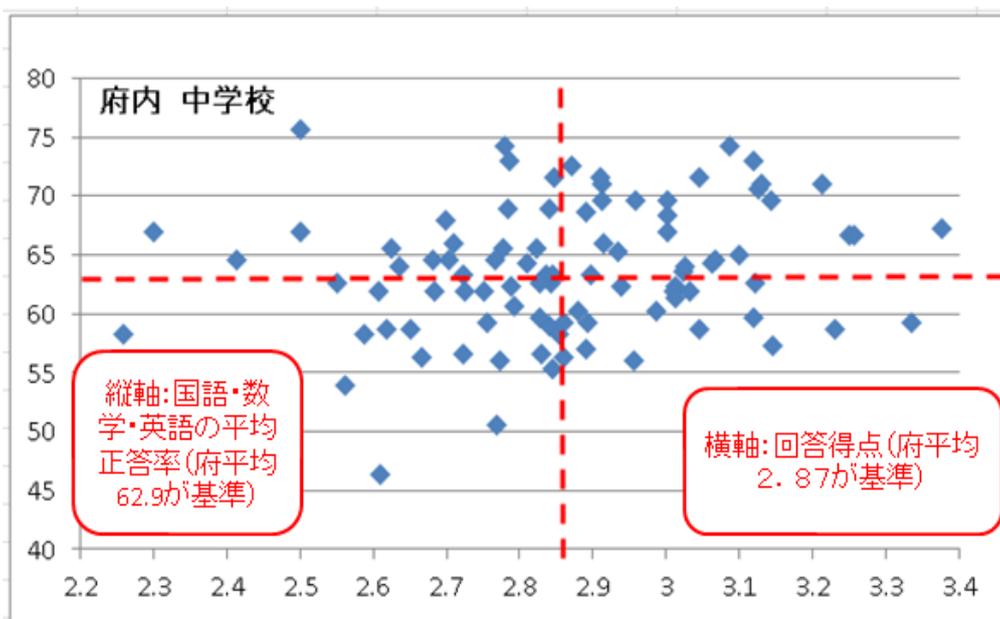
さらに自己有用感の質問の散布図を見てください

### 自分には、よいところがあると思いますか

【小学校】



【中学校】



それぞれの散布図のどこに位置しているのかによって、学校の強みと課題が見えてきます。こうした分析を基に、各学校に応じた学力向上の取組を進めていきましょう

## 2 平成 31 年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査

### 調査結果を踏まえた学力向上 7 つの提言

#### 「学びに向かう力」・非認知能力の育成

##### 提言 1 各教科の勉強が好きである児童生徒を増やす

京都府は各教科の勉強が好きである児童生徒数が全国平均よりも少ない状態がここ数年続いています。また、学年が上がるにつれてその傾向が強まる傾向があります。「教科の勉強が好きである」と言える児童生徒を増やすには、「その教科の力がついた」と実感できること、教科の学習が日常生活で役立つと明確に分かることが必要です。その教科を学ぶ魅力とは何であるのかについて今一度考えてみる大切ではないでしょうか。そこに授業改善のヒントがあります。それはまた、教科の「見方・考え方」を働かせることにも結びつくはずで、その改善が子どもたちの「学びに向かう力」を育むこととなります。

##### 提言 2 褒める、評価するなどの取組の振り返り

児童生徒質問紙での「自分にはよいところがあると思う」、学校質問紙での「児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組」が、京都府ではともに全国平均より低い傾向があります。児童生徒のよいところを見つけるには、児童生徒をよく観察する必要があります。また、児童生徒に自己有用感を高める声かけができていないかについても振り返る必要があるのではないのでしょうか。

##### 提言 3 非認知能力の育成

非認知能力の育成は認知能力の育成に結びつくという研究結果がありますが、非認知能力と認知能力は一体として育成されるべきものです。「非認知能力とは？」という定義は諸説あるのでその定義について議論することよりも、各学校で育成を目指す子ども像に則って、「こういう力を伸ばそう」と決めることが必要です。「学びに向かう力」も非認知能力の一つですが、それ以外でも育成すべき非認知能力は何であるのかについて、校内での共通認識が必要です。

## 言語活動の充実などの授業改善

### 提言4 言語活動をあらゆる教科で行う

授業に言語活動を取り入れていることと、教科の平均正答率とは相関関係がありません。また、学校全体で、あらゆる教科で、言語活動を取り入れることと、平均正答率との相関関係も見られません。思考力・判断力・表現力を育成するためには言語活動が不可欠です。グループで話し合う、考えたことを文章に書く、他人に説明する等、各教科でどういう工夫ができるかについて校内で交流することが大切です。

### 提言5 子どもたちと教員の「ことばの力」を注視する

文章を正しく読む力が現代の子どもたちには十分ではないという研究結果があります。うなずいていても、実は人の話の内容が理解できていないという子どもたちの中にはいます。そのことを念頭に置いて、「これくらいの文章は読めるだろう」「これくらいは理解できるだろう」ではなく、「本当に理解できているのだろうか」と考えて、子どもの理解を確認しながら授業を進めることが大切です。そういったことに留意しながら、授業に言語活動を取り入れるべく、教員自身が言語能力に関わる研修を行うことも大切です。

### 提言6 生徒指導の機能を強化した学級経営

生徒指導の機能(自己決定の場・自己の存在感・共感的な人間関係)を活かした学級経営が大切であることは言うまでもありません。教員の子どもたちへの適切な声かけによって、学級は落ち着きます。教員と子どもたちとの良好な人間関係が構築できているかどうかは、よりよい学習環境が作れるかどうかに関ってきます。

## 学校の組織力の充実

### 提言7 模擬授業や事例研究などの実践的な校内研修や校内授業研究の充実

模擬授業や事例研究などの実践的な校内研修を増やすこと。また、校内授業研究を含む校内研修の質・量の向上を目指し、校内の「授業力」を組織的に向上させることが必要です。事前研・事後研の内容を充実させ、これまで実施してきた事後研の方法の見直しも視野に入れて、「教員全員が学べる場」を作ることが必要ではないでしょうか。

「この授業では子どもにどのような力を付けさせるのか」を明確にして授業を構想し、それができているのかを、複数の目で検証する。その繰り返しが校内の授業力の向上に結びつきます。授業を見る目を養うことも重要であり、研究授業の前では「どういう視点で授業を見るのか」について確認することも必要です。

そうした取組について外部からの意見を求めることも大切なことです。